野津原方言集

30

野津原方言集　続編№３０号《通算４０号》

◇　表紙画……カット集団
◇　題字……姫野順子
◇　挿し絵……カット集団

◎　ご協力いただいた皆様

永富忠、波多野直人、川西哲生、佐々木均太郎、工藤保、
岡本政雄、波多野テル子、斎藤キミエ、菊屋奈良義、
伊藤義昭、那須量、那須香、工藤健一、工藤三助、
豊東サツキ、甲斐英行、利光節子、佐藤吉晴、佐藤昌史。

◎　使わせていたたいた資料

立石の陣と豊後永富家、朝霧、野津原文化財調査こぼれ話
野津原町史、宇曾山物語、肥後街道話、三助物語資料、
あの日あの時、月のうた、読み語り資料、方言放送資料。
文化協会放送ナレション資料、本町老人クラブ冊子、
野津原歴史調査資料、世利川井路改良区資料、記録資料。

野津原方言集　続編№３０号《通算４０号》
令和３年２月吉日　発行
大分市野津原竹矢　野津原方言調査会
☎　０９７＝５８８＝０５７２

目次

見だし……1
もくじ……2
はじめに……4

● 五助の夢物語

逆修墓……5
石垣原合戦まで……7
方言説明……8

● 方言子どもの世界

お手玉上手おばぁちゃん……9
川の怖さしっておくこと……11
迎えに来た先生……13
世は移り変わる……15

● 民話、伝承

江戸期の本町……17
宿場町に辿りつくまで……22
本町の文化財……24

● 方言単語

『は』⇨『ラ』……25

● 女性の底力

父さん戦争に取られて……37
お接待の思いで……39
人の宿命は紙一重……41
方言説明……43
一人じゃ生きられぬ……44

● ちょっと一服

方言いくつ解りますか……45
チョコット説明……46
歯は元気、タバコ入り……48
名月様……49
方言説明……50

● 宝の玉手箱

老人会長の英知……51
宿場町は下の原まじ……53
古い歴史もつ野津原……55
紆余曲折ん変化……56
そん頃の米の値段……58
開拓青年の根性……59
方言説明……60

● ふるさとん味

ミョーガお結び……61
日の丸弁当……62
焼き米の味……63
保存食あれこれ……64
方言説明……65
こぼればなし……66

● あげなこげな

東京五輪再来……67
青年団歌、子供会の歌……68
コイサは根性……70

● 肥後街道三助物語

三助の執念……73
巡り会いの宿命……74
蜂にさされて……77
悩み多い他地区通り……79
念願かなう水路通る……80
方言説明……81
やる以上はトコトン……82

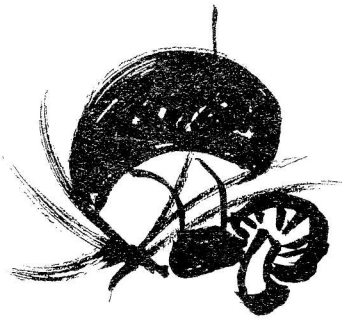
● 方言単語

『ひ』⇨『ニ』……83

● 時代の移り変わり

移り変わる歴史の中……93
谷水利用自家発電……94
ＴＶ放送、国民文化祭…95
宇曾宮２５０年……96
閉町式こもごもな思い…96
方言説明……97

● おわりに……99
● 伝言板……100



表紙画……カット集団

若い人たちが余暇に　書いたカット画を　快く掲載協力して頂き今回は干支に　ちなんだ『子』が　入っています。春の野山景観を　醸し出した若い跳躍が　アレンジされて『もうすぐ春です』の歌声も　聞かれそうです。自然の草花は何であっても　構想する若者らしさは　すばらしいと思います。ありがとうございました。匿名希望ですので　そのようにさせて　いただきます。

はじめに

東京オリンピックが　開催と決まって国内も　いろんな問題に巡り会うことになるが　景気回復や国内の振興発展が　約束されるならそれは　期待もされると思います。東日本の大震災から１０年余り厳しい苦難の中から　やっと光明も見えたように　感じ取られるのも　国民の努力の賜物と思います。

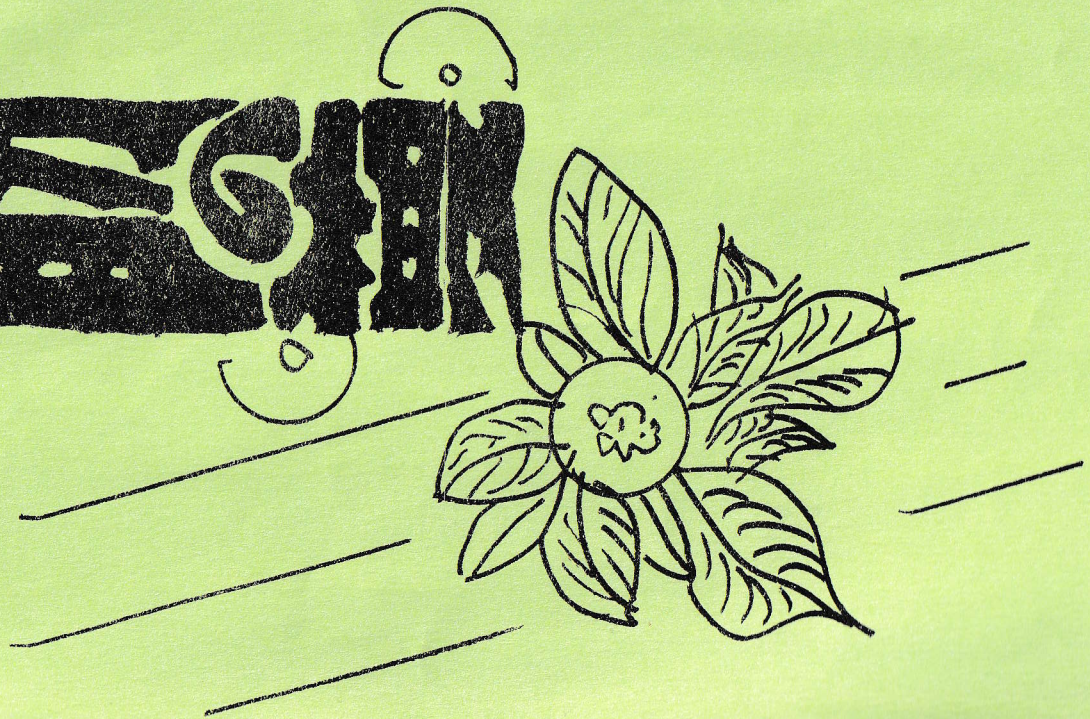
歴史は常にくり返され　過去の苦痛を反省してこそ　進歩もあると思います。昔からそんな苦労の中で　心が結びつくものに言葉がありますが　使い馴染んだ方言もまさに　過去の文化財と思います。平成４年に始めたこの　調査も２８年余り冊子も４０冊が　皆様のご支援ご愛読によって　広まっています。

続編№３０号にも　『工藤三助⇨五助街道物語』も　２回目になるのを始め　１０のジャンルに　オモシロおかしい　素人集団の集め編集した　話が綴られています。方言単語も重複した意味も含めて　ここまで４１８３５語が　集まりました。このまま進むと『わ』⇨『ワ』の時には　約６万語くらいになるかも。

内容も少しずつ変貌していますが　これはご愛読者の皆様からお寄せいただく　資料も入れさせてもらい　幅が増えているのです。それだけご期待もして　下さっていると感謝申しています。２０１２年《平成２４年に》日本善行会よりご苦労様と　『善行章』を　調査会に頂きました。賞状と盾を励みに続く限り継続して　故郷の生活用語の方言を　収拾記録に残してまいります。ので引き続きご支援ご愛読の程　お願い申し上げます。

野津原方言調査会　会長　小野寿祐
ほか　会員一同

মেঘ



五助の夢物語　『逆修墓』

慶長５年《１６００》石垣原合戦に　野津原在住ん５２名も出陣し　１９名は無念な討死となった。そん際に永富家三兄弟も　こん戦いに参加した　源十郎統継、与右衛門、九郎ん三兄弟。死を持っち大友主家に　忠誠を誓った証とも　言えるのじゃあるまいか。生前に建立する『逆修墓』は　４００年もん風雪にも　耐えち今も尚お参りするしも絶えない。

隠棲の地は野津原の　多恩院の寺域高台にあり　兄源十郎を中心に右に与右衛門　左に九郎の　三基の石塔は　健在在りし頃の勇姿を　そんまま今に　残しちょるような様。

慶長５年《１６００》９月１２日夜半　陣中冴え渡る　月光の許三兄弟は　余生別れの杯を　交わしたち言う。明けち１３日　払暁に石垣原ん合戦の　火ぶたは切っち落とされた。大阪方将兵７，８百、黒田方将兵なんと　３０００余とか。かぶらやを　引き合う合戦の儀式。礼を弁えた　もののうの荘厳華麗な　合戦絵巻が展開されたよう。

『我こそは』と名乗りあげ　名こそ惜しけれど　ここを先途に獅子奮迅の戦競　命かけた男ん　晴舞台じあり　壮絶な儀式ん終焉でんあったよう。

戦終わっちそしち　ものの哀れを知りたる　よき人たち豊後武士ん　最後ん姿でんあったよう。大友旧臣の忠魂は　悠久の時ん流れん中　鶴見ん腕に抱かれち　とこしえに消えて　行ったのじゃろう。

永富与右衛門、九郎は共に討ち死に　出陣した野津原郷士の４２名んうち１９名が　草葉の露と消えたのは　誠に痛ましい事ん　語り草が涙誘うんでもある。

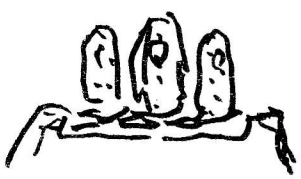
関が原合戦以来　大友王国は滅亡　旧臣たちゃ領地は失い　盟主もあよせず　伝来の地において　一族郎塔共々に　農耕魚労に精出し　天与の作物を　分かちあいながら　競いのない穏やかな　日々を暮らしたと言われる。しかし豊後が再び　お家再興なるやの夢に　旧臣たちは日を追うごとに　一命を主家大友に　預けようとものののうの　思いが甦ってきた。

このような紆余曲折が　あったのだが　運は寄せてはくれぬ　時ん流れはついに　石垣原の場面にと　移ったのでした。振り返るとそんな宿命にあった　豊後武士集団であったと　思いかえる勇気も必要なのでしょう。散華した武将の願いは　きっと幸せな社会ん構築に支援しち　くれると信じています。

野津原ん見晴らしもいい　場所に静かに眠る　その魂はきっと次ん時代までも　語り継がれる　人間であったことは　幸せ人生じあったかも　知れません。

逆修墓の場所…野津原にある　大分市野津原支所から　歩いて５分、国道バイパス　『４４２号線』の　すぐそばの場所。国道に小さな案内板もあります。支所から西に歩くと　ＪＡ野津原支店があり　そのまま進むと　すぐわかります。上り坂が墓地の中と　北からなら急な坂道も　ありますので　この道利用の場合は注意して　滑らないように。

これほどまでに　大きな『逆修墓』は　珍しいようです。材料がしっかりしているので　４００年過ぎた今も　風化被害はあまりなく　刻まれた文字の読み取りも　可能です。永富家でも大切に管理して資料整備も　されちょるから　その資料から構成を　致しました。方言集の性格上　必要な部分だけ　使わせて頂きました。



石垣原合戦こぼればなし

石垣原合戦なナシ起きたか　慶長３年《１５９８》８月に秀吉が死亡　当時徳川５大老筆頭ん　家康と石田とん間ん　対立が表面化　諸大名抱き込みが　激しゅうなった。豊後国主ん大友も慶長４年に許されち　江戸に住む子どもん方に　身を寄せチョッた。じゃがこんだ京都に入り　徳川に心寄せちょる　中津なんかとん密約じ　機会を見ち豊後に　予定をしちょつたごたる。

それじ岡城ん中川に　仕えちょつた　者たちを通じち　加藤清正とも盟約を結ぼするなんか　大友再興を願いよった。大友氏ん旧臣じゃつた永富も　主家再興が近づいたとん　連絡を受けたき　野津原ん町外れに　慶長５年《１６００》７月に　逆修墓を建テタゴタル。ここを選んだのも　おそらく一族ん　誰かが住んじょたからでんあろう。

出陣にさきだち『生前供養』して　出陣したとも考えらるる。三基ん刻書きが　はっきりと残っちょるんも　覚悟決めた人間の魂が　宿されちょるきでんあろう。

当時野津原郷士は４２人出陣　うち戦死は１９人じ　これは後肥後領になっちかる　加藤清正ん命じ　報告されたと記録なれちょる。

逆修墓は別に福城寺ん　寺域にもあっち　これは室町時代の作のよう。祖父が孫の成長念じて　建てた童子のもので　灯明形ん石造りの物　当時としちゃ珍しい　搭でもあるごたる。寺の裏側にひっそりと立ち　回りは寺の奉仕じ　美しく掃除されちょる。きっと縁故者が　お参りか明かり灯した　跡が残っチョル。五助も立ち寄って　こうべ垂れると　昔日の祖父の心情が　伝わっちくるごたるち　語ってくれた。

※※※　方言説明　※※※

５Ｐ　こん…この。するしも…する人も。そんまま…そのまま。ちょるよう…しているよう。カブラヤ…矢の一種で矢の先に木、鹿の角で出来た丸くカブラの形にしたもの。カブラの先にヤジリをつけたもの。戦闘や儀式に使う　空洞の穴をあけ飛ぶ際に高音を立てて　敵を脅す役割りも。飛ぶときに回転しないようしてある。でん…でも。そしち…そして。

６Ｐ　あよせず…求めず。もののうえ…武士らしく想いめぐらす。

７Ｐ　ナシ…なで。チョツタ…ととていた。じゃがコンダ…だがこんどは。じゃつた…でした。ゴタル…ようで。ちょるんも…残っているのも。ちょるきでんあろう…そんなふうになっているから。室町時代…１３３０時代⇨１５６０時代まで。

馬子の五助さんが　時折想いでーたごつ　一の瀬を挟んじ菊池軍が　攻め方じ　大雨が続き　食料もノウナッタモンジャキ　引き上げた事があった。じゃろうなぁ　こげな田舎に来て　知らん人んじょうん　場所じソゲー長ぅおってん　食べ物なんか　持って行くしゃオルメー。

ソレガ知らんシドウジャキ　尚更そこまじゃ面倒はナェ　見てん何さるるか解らんじゃ　『爆も当たらにゃ負けん』ち　言う諺もあるが　てーげな事なら同情もする。小雪んふる夕暮れに　みすぼらしい物乞いが門に立った。留守番の娘が『何もないけんど　せめてトイモん蒸したのでん』ち　手塩皿にいれち差し出した。優しいそん　お接待に『これお礼の心づけです』と　用心に持っているんじゃろうが　膏薬をくれたち言う。帰りかかった時親も帰ってきち　『こん寒空一晩泊まったら』『甘えていいでしょうか』　感涙する老僧らしい身ぶりに　人の情けのなんと暖かなのに　小雪も解けそう。

子供文化

9→

『お手玉上手な　おばぁちゃん』

一番はじめは一の宮、二また日光東照宮…』と　声自慢な人が唄いだしたら　オトシに持ち歩いちょる　おばあちゃん　あっと見ちょるまに　とりだすと　ヒョイヒョイと　手際も鮮やかに。お手玉は　おばあちゃんの　手を離るると一つは　一足先に上にモイッコンハ　出番を待つちょつた。

ニコニコしながらまるで　テズマ師が上ぐるごつ　宙に舞い上がり　次にあげるお手玉と　途中じスリチゴウチ　交替しち下がり　一つは上っち　クルリト回ると　コンダ交替しち　上がりさがりがソリャモウ　おばあちゃんの　手先ん言うとおりに　動くもんじゃき　みんな拍手拍手。

ニコニコしちょつた　おばあちゃんも　チット　ダッタンカ『ハーひずかった』と　笑顔じやめた。皆んなは思わず　拍手すると　おばあちゃんも　嬉しかったんか　手を振っち　椅子に腰かけたが　やっぱチッタ　ダッタヨウニモ　思えた。皆んながあんまり拍手するもんじゃき　真剣になったんかん　知れんな。

『おばあちゃん　なしソゲ上手なん』　ばあちゃんも　そげー言われると少し　テレテ　『ジャナ　いつも子守する頃かる　いつもシヨッタキカナ』　『リャー子守しながら　ゆうできるなぁ』　感心した子どもたちん　質問が次々に出るき　立ち上がると手真似しながら　真剣に説明しちくれた。

『あんたたちも　練習さえスリャ　スグ上手になるんで』　といわれたもんじゃき　元気のいい女の子が　『私　してみたい』おばあちゃんは　嬉しかった。自分から進んで　『やりたい』と言うからにゃ　きっと覚えも早かろう。『あんたは　チットゥー練習したら　すぐ上手になるで』

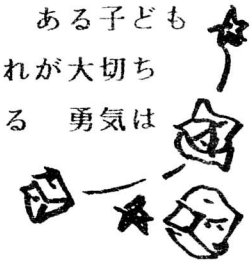
それかる２，３日しちからじゃつた。『おばあちゃん　オルノ』『オルデ　コッチジャ』　げんきのいい　おばあちゃんは　きっとこの女の子は　くると楽しみにしちょつた。『上手になったな』『はい　まぁあんまり　上手じゃないが』『そうな　ほんな　やっち見せよ』

ひょいひょういと　旨くあげさげする　お手玉に　おばあちゃんも　ニコニコしながら　その女の子を　しっかり抱きしめた。そんくれ嬉しかったんじゃろう。『ちゃー　上手じゃなぁ　ウットウより　うまいこと』『あんな　ばあちゃんには　まだカナワンよ』笑顔の　おばあちゃんは　『下手じゃけんど　ウットーが唄う　き合わせち　あげちみよ』

お手玉が上手じゃき　唄も上手に唄うき　女の子も調子ゆう　もうお手玉が　言うこと聞くように　あがりさがりの　踊りを見せちくれた。『ちっとヨコオウエ』『はい』　おばあちゃんも　さすがにチット　ダッタンカ　それとも女の子が　あんまり上手になった　じゃき　『まいった』と　言おうかち　おもいよった。

でもそりゃーよくない　だから無理して　『上手になったが　まだまだ練習したが　いいち思うきな　頑張ってね』『はい　おばあちゃん　ありがとう』　二人はニッコリ楽しい笑顔になった。

『あんまり夢中に　なっちゃ悪いんよ　お家のお手伝いなどが無いときに　お家の人に　『練習してもよいか』を　聞いてするのが　いいち思うよ』『はい』　元気な返事は　きっと約束を守る　そう思いました。見ただけでは　簡単でも　してみると　難しい　手裁きが大事で　又相手に楽しい　思いをさせるような　そんな心がけも　大事と付け加えた。　優しい日本に古くから　ある子どもの遊びの中の　お手玉です。自分も相手も楽しい　それが大切ち思います。古い遊びが消える今　こんな遊びに挑戦する　勇気はすばらしいことです。



川の怖さを知っておくこと

美しい水が流れよる川は　いつ見てん入って遊びたいごたる。けんどそれは　川をしらないからです。川の水はいつも　イッショジャ　ネエンデ　多い時やら　濁った時やらあるき　一人じゃ行かぬ　入らぬこと。行くときにゃ　家の人に話しておく　二人以上で行くことを　守りましょうね。

それはあんなに美しい　優しい川でん水の中まじゃ　なかなか外からは　わからんので。じゃき　滑ったり　転んだり、それによりおぼれたり　気絶したり　する事もあるんですよ。いつも入っている　大人でん時にゃ　スベタリコケタリ　アオノキサンパチ　転んじ大怪我する　そげな事もあるんで。

そりー川の中にゃ　ガラスの割れたの、金物んきれはし、虫や害虫もオルカン　知れん。刺す虫どま　そりゃー痛いもんじゃき。用心にこしたこたー　ねえきな。ゆう気をつけち　お勉強するんなら　こげなこたー　守って行き　入る時も用心しち　入りましょう。そげー用心してん　怪我する事もあるきな。

深い所には注意せんと　急に深くなったり　滑って深みに入るそげんこともある。石が動いて　足を打ったり　足を挟んだりもする。滑った拍子に　ダマシ転んで　頭をうったりもする。あまり川に入らない人は　じゅうぶん　そげな事も調べち　怪我や事故んないよう　気をつけち　勉強しましょうね。

虫に刺されたり　怪我したりしたら　すぐきれいに　そん場所を洗ってすぐ　家に帰ることです。すぐ治療しないと　化膿したりすると　大事になることもあります。見た目には静かで　優しい川でも予期せぬことが　起こるものですから。足が動けぬ時は　連れの友達に　連絡を取ってもらう事です。

何も事故もなかったのなら　一番よいことじゃが　川に入るにゃ川の神様もありましょう。だから入る前にチャント　『ハイラセテクダサイ』と　お願いするのも　よいとおもうんで、そぅすりゃちゃんと守ってくれるし　珍しい物に出会うかもね。そんな心がけをもつのも　大事な自然を大切にする　気持ちです。

川にはつきものの　橋もあります。近くに橋があれば　その橋の上から　川をじっし眺める。自然に中で自分は　いまどこで　何をシヨルンカも　考えるのも大事でしょう。川や橋は人間の　生活にゃ欠かせないもんです。改めて感謝し　川と橋はどんな　結びつきがあるのか　それも知ることが　出来るんで。

その川の水と　橋の高さや　大水の時の橋の位置　なんかも折角の機会じゃき　じっと眺めるんも　お勉強になるんで。橋の上からなら泳ぐ　魚も見えるかも。じっと流れを『みつめていると』
橋に乗ったまま　上に進むように感じる。これは目の錯覚ですが
下りの流れを　じっと見据えていると　橋の自分たちは　橋と共に上に上るようです。

橋の水の中にある　足もとはどうなっちょる　じっと水の中にたったままで　大水の時には　怖くはないか　流れる心配は　大きな木が流れて来て　もし橋にヒッカカッタラ　大丈夫かな。なども勉強の機会かもね。農家のひとたちが　掛けて通る板橋は　水が多くなって橋を越すと　板が流れるので　板と板はつないで　岸の大きな杭に　くくりつけてあります。

だから流れたとしても　連なった板はそのままに　流れ水に泳ぎ水が　すくなくなったら　連なった板をひきあげて　橋をつくります。水害の被害に　合わぬように　工夫した板橋も　この頃はもうなくなったかもね。このほか一定の水は　橋を越すような『沈み橋』も　あったけど今は　どぅでしょうか。

迎えに来たのは先生

五郎はなんか学校に　行くんがヨダキーごたる。親は子どもん気持ちが　ゆう解るもんじゃき　何を『いいだすかな』ち　内心心配じゃがソレトノウ　待っちょつた。『ちっと腹がいてー』やっぱ　そげー言うもんじゃき　『ほんな薬飲むかな』　と言うと『そげまじゃネエゴタルガ』　と返事が　言い訳ちユウ解る。

『ほんな行くだきゃ　行っち悪ぅなったら　先生にいいよえ』『……』　返事はない。『オカチャンガ草きりかる　モドッタラ学校に　行っちみるわな』『……』　それにも返事がねぇ。やっぱ学校じ　コナサレヨル　そげー思うた　母親じゃつた。子どもどうしじ　喧嘩したり　コナシたりは　ゆうあるもんじゃが　なんかチット　チガウゴトモあった。

仕方ねえような　シオレタ格好じ　学校にゃ行ったが　母親も気になり　苦にもしよった。イジメられよるんか　それとん何かほかん　事でんあるんか。草きりかる帰ると　サブサブ顔洗って　チョコット着替えると　学校に急いだ。親にしちみりゃ　心配が一日ついち　回られたんじゃ　もてんきでんある。

学校につくと　教員室じ受け持ちん　先生に会えたき　『先生これこれじ　今朝がた腹が……』　聞いていた先生　『でしたかそれは　心配でしたな』と　昨日の友達同志の　喧嘩の説明をし始めました。『級長を決めるのに　どしたらいいか』　生徒ん意見聞いた所　『五郎が　先生皆んなじ　選挙したらどげー』と意見を出したんです』

母親はタマガッチ『ソゲナ話なんかチットモ　センキ何事があったか　心配でしたもんで』　と来たことの説明も　したのです。『五郎らしいなぁ』　先生も大笑いしました。

『でしたか　ホンナ心配せんでん　よかったんじゃろうか』母親ん心には　嬉しい成長した五郎の　笑顔がパット浮かびました。『そうしたら　みんなが　五郎お前が級長になれ』『それがいい』『賛成　賛成』に　なったもんじゃき　五郎が困ったごたる。先生もそれ聞いて　『私もとても　嬉しかったんです』

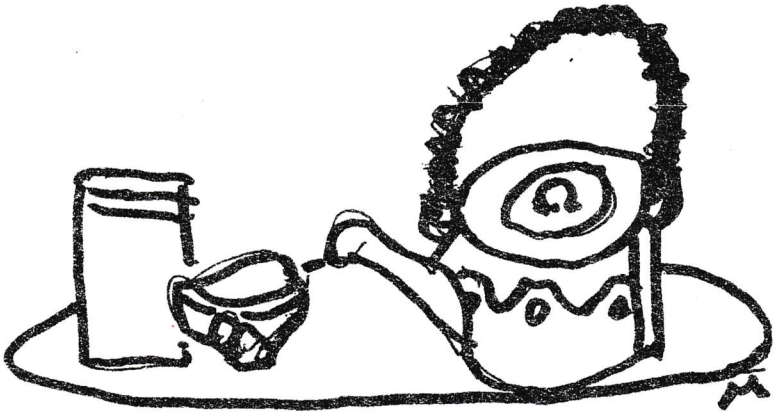
五郎の困った姿をみて　『じゃこんだは　選挙じ決むる事に　するがいいか』　皆んなも賛成でした。そして　今日午後の時間に選挙するんですことになっちょる。『今日午後の時間に　選挙して決めることに　なりました』『じゃつたんですか　五郎が』　母親はほろり目頭を　拭きました。

『こうしましょう　お母さんも今朝　やくそくしたので　迎えに来たことにして　私が校門から入って　このことを話ましょう』『いいんですか　申しわけないが』『いいです　五郎も母親は約束守ってくれたと　親も信頼します』『ありがとうございます』　涙は嬉しいのです。先生もも　よい生徒をもったと　心のなかでは喜んでいました。

１時間が終わった時　五郎は急に教室から　出てゆきました。それを見た先生も　急いで裏口から　校門に走って　五郎が待ってい側に現れました。『先生どしたん』『お前こそ　ここで何しよる』『うん　チョコット　オカチャンニ』『そうか　いいオカチャンじゃのぅ』『えー』『さっき　お前が腹がいてーち　心配しち来たんど』『……ふんと』『本当の事を　先生話したど　悪かったか』『いんげ　悪ねえが』　『こん組はみんな　いい友達じゃのぅ』

級長選挙は午後にあっち　すぐ決まりました。みんなが投票したのです。今まで先生が素晴らしいと　決めていた方法も　影の声を聞くと辛い事も　多かったが　これで公明正大です。言うまでもネエ今回は　五郎になったんと。

民話伝承



江戸期の本町

江戸期になっちかるん本町は　はげしゅう変わっちいったもんじゃき　いのちきん方法もでーえぶんゆーなった。ち言うてん儲けがゆうなった訳でんねーが　文化ち言うか心が豊かになったち言うか　物事ん判断力が跳びはぬるごつ変わった。それまじ権現にゃ家が３８戸、恵良にゃ６５戸家があったごたる。それにゃ武家屋敷は入っちょらんじゃつたき　普通ん家がどんくれー今と比べりゃ　想像もつく。

古町が西に拡がっち　寺町が東向きに延びちきたもんじゃき　やんがち地蔵谷が埋められた事もあっち　いつんなかめーか家が連なり　今ん本町通りが形づくられた。

☆　足るを知らざる者は富めりといえども貧し　足るを知る者は貧しいと言えども富みあり…釈迦…。
運は人から富みを奪うことが出来るが　勇気を奪う事は出来ない…セネカ…。
子供は両親の言う通りの行動をしないが　する通りの行動をする…格言…。

石垣原ん戦いん後に肥後領になった野津原　そん本町にはじめんくちゃー矢の原に造る予定ん『お陣屋…殿様の宿』　止宿所が出来た。参勤交代制度になっち肥後と江戸を行き来する時　必ず泊まる宿じ水もあり護るにも堅固な場所じゃつたき　出来たんじゃが施設も役所があり宿　店　人家　生活全般の仕組みに　不自由のねえような恵まれた地域になった。銭もいるけんど一昔前に比べたらまあタマガルような　そげな思いがしたんじゃねぇ。制度化…１６１５年じ１６６０年頃にゃ　一の瀬渡しかるん街道も恵良まじ完成した。お陣屋周辺の道幅は約８Ｍ両側に水路もあり　画期的な整備んされた町並みに　人ん往来も多うなっちよる。

ほんなそん頃　本町に何があったんか　ちょいと当時にタイムスリップしち見ようかな。五助さんが得意ん話は人情がこまやかじ人の心が結びつくごたる人生ん歴史物語でんある。

お客屋…参勤交代の時の　お供ん侍ん宿…上級武士の人たち。

町屋……中　下級のお供ん武士はこの宿に泊まる。※　町屋を造る時にゃ建物　間取りが決められち　座敷、奥座敷分の畳替え費用などが助成されちょつた。

防火……道路の両側に水路があり『用心水』が常時流されちょつた。幅約９０ＣＭの井路。水田灌漑用にも利用。
火番所、防火用水の池もあった。
火よけ藪…高さ約２，５Ｍ　幅約９，７Ｍ　長さ約２７，２Ｍ。高さには築山になったもの　竹やぶのものなど防火と景観も兼ねちょつた。
特にお陣屋入口の防火山は大きく　幅約１４，５Ｍ　長さ約２７，２Ｍ。

火災……この間火災も多ぅじ１７５９，１７８３，１８０８，１８１７の大火事には　さすがん本町んしもアワテマクッタごたる。草葺き屋根　板葺き屋根が軒を連ねた一本筋ん町　じゃもんじゃき人ん手ん消火じゃタカガ知れちょった。

警戒……町ん両入口にゃ『アゲスド』『サゲスド』があっち警戒されよった。殿様ん泊まった時は木戸も閉めち厳重な。

宿場……普段な一般客も泊るる宿もあっち　日常生活ん店もがいとあったき賑やかじゃつた。主な店にゃ…かじ屋、酒屋、塩、醤油、質屋、うどん、ソバ、げた、ワラジ、大工、髪結い、飲食店、炭、油、トーフ屋なんかも。

高札所…高札が張られる場所じ広さが８掛けじゃつた。紙８枚を張るだけん広さは近所にゃなかったち言う。

医者……殿様ん命によっち代々駐在ん医者がおったが　庶民が診てもらうような事は滅多になかったようだ。

とてん知らん事ばっかりじゃもんじゃき　儲けたごたる気になっち早ぇしゃぼちぼち『だんごじる』コネハジメタんじゃ　あるめーか。『何やもうそげん時間になったか』『いんにゃまあ早ぇけんどあん娘ゃコイサどうでん　いい事があるんじゃろう』『そうか若いなーいいのぅ』　誰か口水たれたんな……。続きぅいこうえ……

学問所……駐在医師が武士ん子弟やらに厳しい教育。一般の子供にも教えよったごたる。

役人……久住、鶴崎海岸警備隊士の一人も駐在しちょつた。殿様に直接目通り許される特権の役人もおった。

そん頃ん村…《野津原村》…野津原　権現、恵良　胡麻鶴　塚野　上田吹　下田吹　入蔵　吉熊　目方　羽原　辻原　岡倉　矢の原　原村　長野　下詰　上詰　荒水　今畑　栗灰　大田　福宗　下羽　長竹　野野台…２６地区。

地方士……細川領になってん任官せんじ住み着き　士族浪人格じ上席身分扱いされたしたち。主にお客屋などをしていたごたる。

人馬会所…役人が３人おっち参勤交代ん時　人足やら馬ん調達かる行列う迎え送りする仕事うしよった。普段は馬５頭を準備しち飛脚時間《鶴崎…熊本》やら料金なんかを掲げち　通行人の便宜をしちょつた。

御本陣並びに客室付き…御陣屋　お客屋のもろもろの世話をしよった。

馬立てば…馬の休息場所で馬方ん弁当食べ場所。馬の利用はここで申し込取り次ぎなんかがでけた。

駕籠屋……人や荷物を運ぶ人たちん待機場所　運んじ生計をしちおった。

木賃宿……安宿の総称じ庶民が旅行なんかに利用。長いり道中じや天候やら川止めなんかがあっち　路銀が大事じゃつたき喜ばれた。常連客などにも親しまれ人気商売の一つでんあり　イケウチんごたった。

こげーしちみると野津原ん中でんやっぱ　本町ゃ昔かる政治文化ん中心地じゃつたごたる。ノキー話ぅしなーち言われた五助さんも　アワズは言えんしスコドンナ事も話せん。ねー知恵う絞っちここまじ来ると　ヒモジュウナッタ。気の効いた隣ん娘が手盆に乗せた　黒砂糖餅うマイダレにちょいと隠し　ええらしいじゃねーな愛想ゆう指し出えた。

『アイ好きな餅うヒモじカロウキ』『や　気が効くのうお前がんなあるんか』『うちはいいき食べなー　みんなシラシンケン聞きよるき……』『すまんのや…』　あとは言葉にならん娘ん情愛に五助も目頭う熱うした。母親が早う死んだにーイジケンジ頼ってくる　そん心根が自分がん娘んごたるき…つい甘えもするが……』

惣庄屋会所…役宅　内検者詰所　帳蔵　囲籾蔵　などがある場所で行政の要。

木の内水路…本陣防衛と利水行政　防火灌漑用水の役目も果たし飲料水としても　活用され重要な役割を果たす多目的な水道施設。１６０１年代に作られ権現から引導した水路で　肥後領となった１６１０年代に改良されお陣屋を取り巻く　防衛施設にも使われていた。１７９７年の工事から１８０８年まで　苦難の功績は認められなかったが　親子代々が７６回も訴願して１８６８にやっと　長年の功績が評価された。

※　現在も水利と防火用水に利用されるのが　当時の先人の名残りとして残されている。

参勤交代……１６１５年公布されたもので１６３５年制度化され国内の交通を整え　文化を交流するのに一役買ったが　往復の費用や江戸在勤の出費に　大名の財政難を招く要因にもなった。が幕府はそれが狙いでもあり　道中の人件費省略の為に自国領地を　通過する手段を巧みに利用する　策略はさすがでもあった。

生活あれこれ…村役人は紋付き　傘が許されたが　一般庶民には羽織は着らない、頭巾、傘、雪駄も禁止。股引き脚絆《木綿》は認める。ボタンは認めない。

女子…１１歳までは花裏は許す、それ以上は着飾り禁止。たばこ入れの華美も禁止。櫛も木製の物を、前だれは浅黄、手ぬぐいは白か無地。

足袋…禁止で老人と子供には糸差し足袋は認める。

※　身分差がはっきりとあって差別時代が象徴。

料理食生活……正月でも一汁一菜、盆…盆ダンゴだが親戚などには一汁一菜を加えた。

出産祝い…赤飯、余裕の人たちは…吸い物、魚、香をつける。

米、粟、麦のほか赤飯《冷えたらパラパラ食》が多く　夜…だんご汁、雑炊などが常食。

手つくり野菜、豆腐。柿や蜂蜜利用の甘み補充。

※　貧富の差が甚だしかったのは歪めない。

交通、物流……判田あたりから塚野経由で　庄内あたりから谷経由で物流あり。肥後街道による肥後と府内や鶴崎、谷経由で庄内郷地。塚野経由で戸次郷地。など交通の要衝にもなっていた。特に府内には１２キロだけに交流も多かったよう。

肥後街道……熊本…大津…阿蘇…久住…野津原…鶴崎の幹線道にある宿場町だけに　活気と賑わいは目を見張るものがあった。本町にあった『お陣屋』を中心に約３００年　羨ましがられるような時代が経過する中で　巡り会わせた本町の人たちは共存共栄の心　寄せ合いながら歴史と文化を護って来た。

宿場町に辿りつくまで

１０６３年代……大神季定が鷲が城を築く…浅内より進出。
１０７１年代……野津原郷権現村がつく。
１１２０年代……一の瀬川原に普門寺ができ　天神免が拓ける。
１３９４年代……赤坂で剣術指南、権現村寺町が東に拡がる。
　　古町も西に拡がる。
★　地蔵谷が埋められて　寺町と古町がつながる。
１５９３年代……大友滅亡。
１６００年代……石垣原の戦い…野津原からも出陣…戦死など
　　この直前に『逆修墓』が建てられた。
１６４９年代……新町の家並ができる。

★　当時の肥後領ど江戸屋敷…上屋敷　現在の国会議事堂あたり。中屋敷　現在の明治神宮あたり。下屋敷　現在の港区あたりにあった。

肥後熊本と…野津原…鶴崎…江戸を結ぶ街道は　野津原あたりを『肥後街道』または『豊後街道』と言い　海路を大阪から東海道を江戸に向かった。帰路は江戸から…中山道を通って大坂から海路…鶴崎…野津原…熊本に。およそ片道３５日間の旅であり　その経費や苦労なども忍ばれる。

七瀬馬子歌から……アオょ勇めよ宿場はそこじゃ

あれが街道の石たたみ…ハァ七瀬のせせらぎ
サラサラサラサラ　ホイホイホイ。
　　宇曾に出ようか一の瀬に行こか
四辻峠の思案顔…ハァ七瀬のせせらぎ
小鮎がスイスイ　ホイホイホイ。
　　あん娘年頃あねさんかぶり
いつか覚えた馬子歌を…ハァ七瀬のせせらぎ
もみじがチラホラ　ホイホイホイ。

世の中が発展すりゃどうしてん　片側じ弱ぇ者がコナサルルごつなり　貧富の差も大手を振っちまかり通る。小作の人が苦労するわりに報いられんのも　じゃが作る田畑を貸しちくるるしもねーとこれも又困ったコンニャクになる。両方いいなーやっぱ頬かぶりかのぅ。みんな頷く所ぁ納得したんか。

★　ひっかき過ぐると肌を傷つくるごつ　しゃべり過ぐると心を傷つくる。…ロシア格言…。
★　経験は最良ん教師じゃが　授業料が高すぐる…カーライル…
★　教育とは先生が　生徒を尊敬する事である…エマーソン…。

自分なそげな気がのーでん聞いちょる方は　モテンタマラン事もある。ナンデンネー言葉がハガイタラシー気持ちにもなる。言葉ん難しさはホンチョイトした事が　トテツモネー事いもなる。

※　うちかたん嫁も…同じ人格としち並ぶる。
　　うちかたん嫁は…それ以上か　それ以下か…続く言葉じ違うこちーもなる。

生活文化たーこげな言葉一つでん　開いて先じゃ相当違うた意味にもなる。けんどそげな事情があってん　黙っち長い間静かに歴史を重ぬる文化財もある。歴史が浅いから古めかしい物は少ないが本町にある文化財の幾つかを話そうかのう。戦国時代にはあったかん知れんが　記録がないけん惜しいごたるが。当時ん役所や寺なんかに『戦いで命を落とした人たちの気持ちは大事に供養するように』ち　ふれが回っちょつたのは激しい戦いに遠方から来た　そげな人たちもおったんじゃあるめーか。

無縁仏となり他国で生涯を閉じた魂は　土地の人たちの供養によって成仏も出来るのでは。人は一人では生きて行けない哀れな　動物でもあるから世話の出来る一期一会は大事に。

本町の文化財　史跡　遺跡

福城寺の宝篋印塔…安政２年《１８５５》と塔身にあり石造美術の姿が見られる。この塔の下に一字一石を修めた大瓶が発見された。

石幢…材が数個合わせられているが　灯籠の火袋の両側は円形、三日月があけてある。生前供養のため作られたもの。

宝塔…形の整った宝塔で室町初期の作か。屋根は照屋根で軒口は二重。国東系統の古武士を思わせる力強さで優雅さも。

石幢…６地蔵像と１０王像を陽刻　１７１７年の刻銘がある。

鷲が城史跡……康平５年《１０６３時代》に築城した城。キクと言う女性と鷲を人柱にしたと言うので『鷲が城』と言う。大友滅亡まで続き野津原八景募集《昭和２８年》では第１位当選をした。

お茶屋門……野津原神社の神門は江戸期の『御茶屋』の裏門だった物を　明治の始め創建の際に移築したもの。約４００年経過のケヤキ門。

肥後街道……現在の本町通りは加藤清正が施政当時の宿場町を形成した当時そのままの道路。時が過ぎて舗装されているが　幅の広さ水路を供えた構成は目を見晴らせた。

犠牲者キク供養塔……長い風雪に耐えて当時を忍ばせる墓標には　語りたい事が多かったであろう。成仏をご祈念申したい。

お陣屋遺跡……東部小学校入口西側一帯が　かっての殿様の宿《泊宿所》街道から何回も直角に曲がった道が　ここまで当時を回想させる。

古事記ひろがり

…　方言は故郷の情愛こもった　生活用語でした。自由に気持ちを込めて使う事で　不自由のない意志が伝わった　まさに生活文化の道具だったのでしょう。必ずしも方言でないかも　又卑下した言葉、使ってはいけない差別用語、一部地域の方言なども　ありますが調査収拾した際に　集まった方言ですので　記録に残す為の性格上すべて入っていますので　趣旨にご了承ください。

は　ハランカオ……腹の皮、太鼓の代名に使う、欲張りん道具。
ハラヒトツ……腹いっぱいに、満腹になるような食べかた。
ハラボウチ……腹ばいにって、寝そうの方法の一つ、降参。
ハランジョル……妊娠したようで、身重になったのでは。
ハラオビュ……腹にあてる牛馬の帯、妊娠した女性の腹帯。
ハラレテン……張られるけれど、頬を叩かれても。
ハランシン……腹の芯まで、本当の気持ちは、内蔵まで。
ハラマッチ…妊娠したようで、あの時の遊びが、喜びの兆し。
ハラタテブクロ…すぐ腹を立てる気質の性格、それが道具か。
ハラシブル……腹がしぼるような兆候、下痢の前ぶれか。

ハリハリ……干しだいこんの酢合え、歯障りが取り柄の料理。
ハリクウジ……頑張ったので、精出した結果は喜び。
ハリコイッパイ……精一杯働いた、頑張った成果は。
ハリイニ……針灸療法に、針灸の手当てに、針が効果の人。
ハリコマンキ……頑張らないので、精出さないと。
パリット…すぱっとした姿、凛々しい格好は、きちんとした。
ハリマクリャ……どこもここも張りまわして、所狭しと張る。
ハリナベメシ……多すぎた飯、まんぱいになった鍋の飯。
ハリタイーチ……頬を叩いて倒れるまで、乱暴すぎる仕打ち。
ハリイサン……針灸医療師、針灸で生計を立てている人。

ハリヤブル……破れるほど詰めて、無理は損の元だが。
ハリコナサン…張るのに手間どり間に合わない、今日は無理。

は　バリバリヤリヨル……真剣にしている、頑張って働く。
ハリンアナホズ…ほんの少しの、ちいさな穴でも、些細な。
ハリオーテン…喧嘩しても得には、争っても結果はどうか。
バリキガイイノウ……頑張っている元気者、若いから達者。
バリキュデーチ……精出していれば、頑張る結果は最高。
バルルト……知れたら大変、わかったら大事になりそう。
ハルトオコセ……一毛田を起こして田植え準備、一作の田。
バルリャ…わかってしまったら、判明したら、早めの詫び。
ハルオビユ……牛馬の腹の帯を絞める、力がはいらないと。
ハルコマ……春先に種つけに回る駒、農家を回って種付け。

ハルサキャ……はるになると多用に、季節の代わり作業が。
ハルニャ……張るには、春には季節の、頬を叩くには。
ハルーダカ……妊娠したのかも、身重になった喜びも。
ハルーデン……妊娠しても体は動かすように、健康第一に。
ハルシコ…ひっぱって張ると伸びがよくなる、張れるだけ。
ハルリャコス……晴れたなら幸せ、晴は農家の味方。
ハルタンスックリュ……春田起こしを、一度だけ使う田で。
ハルタドマ…一毛田は早めに起こして準備、草の成長防止。
ハレチョル……晴れているので、はれたら忙しくなるが。
ハレタド……晴れたから、干し物、天気を有効に使って。

バレクウジ……車輪がはまりこんで、車が落ちてしまって。
ハレモンニャ…腫れたものには用心、治療を間違えぬよう。
バレコミャ…はまりこめば、落ちてしまったら、早く処理。
ハレイリー……腹に入れれば荷物にならない、腹に納めて。
ハレテン…晴れても夕立の用心、腫れた時ほど大事にして。
ハレノ……腫れたならすぐ手当て、晴れたからと油断は。
ハレアガリャ……はれたなら日光利用、天日はありがたい。
ハレタドソウ……晴れたでしょう言ったとおり、ご名答。
ハレンジ……晴れないと困る、晴れ間利用も知恵者、

66
40,661

は　ハロミリャ……腹を見れば。ハンビキド……半値にして売る。
　　ハロタツリャ……立腹する。ハンカタマケタ……半分値引き。
　　ハロクダス……下痢などを。ハンゴガワリー……都合が悪い。
　　ハロサグル……心試しに。ハンコツク…印鑑をお押印する。
　　ハロヒヤスナ…腹痛予防に。ハワク……掃き掃除して。
　　ハロヘセ……空腹療法。ハワイチョケ……掃きなさいよ。
　　ハロードチ…払いますから。ハワハエタナ……歯はできたの。
　　ハロワズラウ……腹痛診察。ハワカニャ……掃いておくれ。
　　ハロワレ…決断して。告白。ハワイタデ……掃きました。
　　ハンブンシタ……下半身。ハワンカエ……這わないですか。

同じような単語であっても　微妙に意味が異なる場合も　使い方で受取方で変わるものです。そこに方言の優しい　心使いも。

ハラ…ただそれだけの単語が　使い方で意味も変わります。『はろ』と言うと　すぐ腹の事が浮かびますので　腹関係の健康にも結びつきますが　ハラン…のように単語が少し変わると　意味は同じでも言葉のアヤが　仲介して情愛が加わります。ハワク…も一般的には『清掃』に関わりますが　ハワカニャ、ハワイタデ、ハワイチ、ところが後に続く言葉が　ハワ…では歯、葉、刃、派にも関わります。

『あ』から⇨『は』の『ン』まで　進んで　単語の合計４０６８１語になりました。この続きは『ひ』⇨『ア』から　スタートしますが　最終回『わ』⇨『ン』まで　まだまだ現れますので　ご愛読の程お願い申し上げます。

健康で長寿の皆様が増えています。なによりとお喜び申し上げます。健康て幸せ人生がなによりです。早朝あ目覚めの後　洗面所でまず『今日はいい天気、心も晴れ晴れ　ラリルレロ　パピプペポ。両手を前に出して　落ちないの…顔のよがみは　ない…言葉は素直に出ますか…』　じやぁお元気な証拠です。

ひ　ヒーチョケ…引いておきなさい、ひいておいて、弾きました。
ヒーチ……弾いて、弾きましょう、引いて、退くことも。
ヒータンカ……弾きました、引いたので、退くのも勇気。
ヒーテン……引いても、退いても、弾いても、挽いても。
ヒーキュ……贔屓の人たち、贔屓が大切な、贔屓気質な。
ヒーシヌ……食べ物もなく死亡する、空腹のまま他界する。
ヒーソ……久しく、久しい間のごぶさた、音信普通のままに。
ヒージイ……疲れたままに、精魂つきて、苦労が重なって。
ヒール…干上がってしまった、干ばつになって、渇水の果て。
ヒーレ…平たい場所、干上がった状態、広い場所にこつ然と。

ヒアイ……利息の、日割り計算の利息、借りたら返す利子が。
ビアチギリ…びわをもぎに行く、びわをもらったので取りの。
ヒアイオ……利息を支払いに、日割り計算の利息払い。
ヒァリット……吃驚するような出来事、咄嗟の危険は回避。
ヒアガリャ……干天で水不足になって、すべてが枯れる宿命。
ヒアシレン……先は見えないけれど、当てどはないが。
ヒアケ……日照りで干ばつになりそう、水不足が広がる。
ビアンツウ……びわの固くなったもの、乾燥で固くなって。
ヒイチカイル……引き抜いて帰る、黙って引き抜いて。
ヒイカグロ……ご弊舞の神楽、ご弊を持って舞う神楽。

ヒイチョケ……挽いてもよいから、引いて持ち帰ったら。
ヒイリャワリ……干上がると大変だから、干さないよう番を。
ヒイル……干上がってしまった、干ばつの危険性も。
ヒイチャラン……引いて揚げない、退かないから、弾かない。
ヒイチャル…弾いてあげましょう、退きましょう、引きます。
ヒイタント…退いたようです、弾いたらしいので、引きます。
ヒイロ……稲につく害虫駆除を、稲の害虫は早めに征伐。
ヒイテンイイド……挽いてもよいから、弾いてあげましょう。
ヒイチク……弾いて進めましょう、引いて加勢します。

407546

ひ　ヒイチョキャ……弾いておけば、引いておく、退いたので。
ヒウタヌリー……遅いので、のんびりした、急がない性格。
ヒウキャイイ…日当たりがよい。ヒエタ……冷えてしまった。
ヒウトリン……日稼ぎ仕事の。ヒエンウチ…冷えない内に。
ヒウムシュ……竈でよく蒸す。ヒエトリュ…田の雑草取り。
ヒウカルヤ……日雇いからの。ヒエタナ……冷えましたか。
ヒエクウダ…冷えこんで。縮む。ヒエタトキャ…冷えた時は。
ヒエクウジ……気持ちが縮み。ヒエクウジ…冷えこみ厳し。
ヒエメー……冷えないでしょう。
ヒエテン……冷えても。

ヒオヌクメ……火の側で暖かくなって、火のそばがいいもの。
ヒオアタッタ火のばで暖まった。ヒオカセ…煙草の火を貸る。
ヒオヨケヨル……火を避けて。ヒオイツキー…日覆い着用。
ヒオオキーチ……火を起こした。ヒカリャノヤ…出し合い会食
ヒオッタ……少しなじれて。　　、光ったら、稲妻光る。
ヒオケセ……消火して。ヒガシズウジ……日没に。
ヒオツケチ……火を移して。ピカット……稲妻が光った。
ヒオオガム……陽を拝む。ビカット……怪しげな光。
ヒオコシャ…火を起こす道具は。ヒガオテチ……日暮れに。
ヒオイ……帽子にかける白布。ヒガトボレン…火が着かぬ。

ヒカロージ……光っても構わない、光るかも知れないが。
ヒガソカシナァ……日傘を貸して、日傘があるなら貸して。
ヒカレージ……光ますとも、光るのはあたりまえで。
ヒカリモン…急に来たとおもったらサッと帰った、進出気没。
ヒガナイチニチ……長い一日が過ぎて行く、一日中。
ヒガイル……西に陽が入って、西に傾いた太陽が沈む。
ヒガクルリャ……日暮れが来ると、暗くなると又忙しく。
ヒガカゲル……太陽が西に隠れると、火影ができ。
ヒガオツル……日が西に入って行くと東に月が。

ひ　ヒガクルル…日没になって暗くなる、昼間が終わりの時間に。
ヒガサシクウジ……太陽が傾き斜めに入る、家に入る陽の光。
ヒガサス……太陽が射す。ヒガユセンデン…毎日替えずに。
ヒカリュウ……光をりよう。ヒガタカラ……太陽は宝物。
ヒキオ……牛馬の綱の種類。ヒガタチャ……一日楽しければ。
ヒキシミー……引き締めて。
ヒキトデン…引きたくても、退きたいのだが、弾きたいなぁ。
ヒキマメシ……麺類のヤセウマ、代用食、盆の食膳の一つ。
ヒキノビユ…麺類の一つで盆の食膳の一つ。仏様との関わり。
ヒキバナ……弾きはじめは緊張、退き時は名残りがつきぬ。

ヒキタテチ…曳きたてて祭り参加。※　ヒキタクジル…無理に引いたり　道具で削りとったり　乱暴な収穫の場合や　無造作に取る場面は側で見ると奇抜にも見える。
ヒキムシル……無理に引き取る。
ヒキモゲ……無理にもぎ取る。
ヒキナラセ……土をひいてならす。
ビキタン…蛙、可愛いい姿は愛敬。
ヒキアキ……夜明け頃の状況。
ヒキシャキャ……無理に裂いて。
ヒキテー……退きたいので、弾きたい思いで、引きたいから。
ヒキヨル……弾いているから、退くらしいので、引いている。
ヒキチギル……無理に取って収穫、なかなか取れない収穫。

ヒキ…退く　退職　代表を引退、地域から外の区域に変更など　現在の存在から　退く意味が多い。自主的、総意で無理に、転出などでと　幅も広い。
ヒク…引く　物を引く　車を曳く、くじを引く、弓を引く。
ヒク…弾く　音楽関係、弦楽器類が入る。
ヒク…糸を紡ぐ、茅を引く、水を引く、団体を誘く、小麦を挽く。心を愛く。汗がひく。心配が安く。計画に賛同する意志が人を魅きつける。などがあるようです。

41,847

ひ　ヒクトキァ……引くときは、退く時には、挽いているので。
ヒクチイウキ……挽くと言うので、引く事にったので。
ヒクデン……低くても、低いようですから、退くけれどすぐ。
ビクットスリャ……吃驚すると、急に言われて驚く。
ヒクルメチ……一緒に束ねて、ひとまとめにして、合体して。
ヒクウ……低くしたほうがよい、低姿勢がうまくゆくので。
ビクチー……落ち着かぬ態度の性格、はっきりしない。
ヒグスリ……毎日の仕事にしている、習慣になってるので。
ビクツキャ……驚いて落ち着かぬので、恐怖心が抜けず。
ビクニ……あまさん、女性が得度して尼に。

ヒグリャハエー……日繰りするような忙しさ、毎日が早くて。
ヒクテズノウ……牛馬の引く手綱、牛馬を操る綱。
ヒゲドマ……髭くらいは剃ったら、身たしなみをよくして。
ヒケチョル……感情が弱々しくて、内向的になっている。
ヒケートン……引きますよ、引いて働くので。地図を書く。
ヒケメジ……後ろめたさがあって、消極的になっている。
ヒケーター……引きなさいとは誰に、弾いてくれたらと。
ヒケ…引く、引いて、退いて、挽いてください、弾いてみて。
ヒケタカ……弾けましたか、退いたのですか、挽けました。
ヒケタンナラ……挽たのなら料理に、退けたらこちらに。

ヒケチョル……挽けているので、弾いているようで、弾けた。
ヒケドキモ……退きどきも大切だから、引退も考えて。
ヒゲムシリャ…俵の仕上がりは髭とりかな、奇麗な仕上がり。
ヒコタチ……弾きたいけれど、退きたいが許可が。
ヒコートン……弾きますけれど、退き後はお願いをしたいと。
ヒコーニ…引きたいのだが、曳きたいのに人が、挽くに臼が。
ヒコケチ……立ち上がりさまコロンで、うっかりコロンで。
ヒコドチ……曳きたいけれど人数が、挽く臼が見当たらない。
ヒコケチョル……うっかりコロンで、品の悪い転びかたで。

ひ　ヒゴロオージョウ……常日ごろん好誼が、日ごろの行いが。
ヒコズリ…ハマげた、昔はげたが常識の時代、はまの低い。
ヒコーカ……曳きましょうか、挽いてもよいですかん。
ヒコードチ……挽くつもりで来た、弾く目的で来ました。
ヒコケチョル…痩せてみすぼらしい姿勢、かほそくなって。
ヒコジッチ……ひきずりながら歩く、弱々しい歩き方。
ヒコズリ……はまげた。はまの低いげた、昔の一般的な。
ヒコズル……ひきずって歩く、足の不具合で体裁が悪いが。
ヒザボーズ……ひざの上、足の関節の一部、大切な部署。
ヒサシュトラルル…貸して底を取られる、家庭事情が変化。

ヒザンウイー…ひざの上で甘える、あまえっ子の独占場所。
ヒザマクロ……ひざを枕に仮眠とは、色気がある風情。
ヒザケーチ…ひざを貸し思わぬ悦び、事情は天変するもの。
ヒザグミユ……ひざ組するアグラ、襞をくんですわる。
ヒザリーナ……空腹を知らせる、腹が空いたので。
ヒサボウズ……ひざの坊主には大切な関節、足の屈伸に。
ヒザマシャワカル……爛さましはすぐ解る、ごまかしは。
ヒサシイノウ……久しぶりの再会で、懐かしい再会は。
ヒサシユ……久しくごぶさたして、再会は夢のようで。
ヒサシブリジヤ……久しぶりの興奮緊張など、思いで回想。

ヒジージ……辛いので、苦痛があって、痛めているので。
ヒジメ……ひどい目にあって、大変な難儀に遭遇して。
ビシャツト…きちんと確実に、しっかりと、きちんとする。
ヒジーニ……大変疲れたので、苦痛があるので、疲労が。
ヒジバチアウ……大変な目にあって、苦労がのしかかって。
ヒシニャセン…空腹でも死にはしないから、簡単に死なぬ。
ビシャトセケ……確実に閉めなさい、きちんと閉鎖して。
ヒジイトン…辛くて疲れた、苦痛が重なって、苦労が多い。
ビショビショ……ぬれてしずくが垂れる、すっぽり濡れた。

40981

ひ　ヒシャクンマンマ……柄杓のままで、柄杓の使い回し。
ビシャビシャ……濡れた格好で滴がたれて、醜い格好で。
ビシャグ……踏みつぶす、乱暴につぶして。
ヒジカル…火を使って煮る、焼く、蒸す、火を使いこなす。
ヒシムギャ……麦を押して使う、麦飯は押し麦がよい。
ヒジー……辛くて、苦痛が耐えられない、慣れぬ苦労が。
ヒシヌル……空腹で死亡する、食べ物がなく死亡した。
ビシット……しっかりと、几帳面に、きちんと。
ヒジボウズ……襞の頭、大切な関節の部署。
ヒジケンド……辛いけれど、苦痛ではあるが、頑張るから。

ヒズデン……苦痛でも頑張る、苦労は我慢。
ビスデン……苦労があっても。人並みと思えば。
ヒズカッタ……辛かった、苦労したけれしど。
ヒズナカリャ…苦痛なければ、なんとか出来る。
ヒズネーナ……苦痛はなかろうか、やれそうで。
ヒズシトナル……とにかくしてみたい、おもいきってやる。
ヒズネーゴツ……きつくないように、無理はしないから。
ヒズガル……辛いと嫌がる、苦労は苦手のようで。
ヒズカロ……つらいでしょう、苦労しますね。
ヒズスリャ……無理やりにすれば、無理は禁物。

ヒズネーカ……辛くはないですかん、苦労ではないの。
ヒゼニュ……その日払い賃金、一日締めの賃金。
ヒゼニャ……一日ごとの手当て、その日の賃金はらい。
ヒゼニン……一日毎に入る賃金、毎日ごとの入金。
ヒゼン……皮膚病の一種、不衛生だと出来やすい。
ヒゼニモヤキタツ……その日貰う賃金も便利がよい。
ヒゾネーナ……辛くはないですか、苦痛はありませんか。
ヒゾッチョケ……引き下がって待機、引き下がって危ない。
ヒゾラニャ……引き下がらないと、危険ですから下がって。

ひ　ヒゾカッタ……大変ご苦労さまでした、辛かったでしょう。
ヒソネーゴツ……もう余命が短いようで、残り少ない人生。
ヒゾカロウ……ご苦労でしょうが、慣れないので大変では。
ヒゾリャ……引き下がって、後ろに下がって、すこし後ろに。
ヒソアワンノウ……久しぶりの再会で、珍しい再会で。
ヒゾロート……後ろに下がる予定で、後に移動しますので。
ヒソット……こっそりとないしょの、人に知れぬように。
ヒソヒソシヨンナ……こっそり話はなにごと、密かな話は。
ヒソアエンキ……久しぶりの再会で、しばらく逢えないと。
ヒソウオーチョラン……久しく逢わないが元気、元気らしい。

ヒダリー……空腹で耐えられぬ、腹がすくのは苦痛で。
ヒダリーカ……食べたい食欲が、耐えられぬ空腹の苦痛。
ヒダルカロウ……食欲が満たされず苦難の、食べてない苦痛。
ヒダリュウデン……空腹でもじっと我慢が、空腹の厳しさ。
ヒダリナラ……食べたいなら工面しょう、空腹の苦痛は。
ヒダリバラ……空腹でもてないよう、死にそうな心境で。
ヒダリーナ……空腹の苦痛が身にしみて、耐えられぬ。
ヒダルネーカ…空腹ではないですか、食事はまだよいですか。
ピタット……急に、きちんと、正確に、突然、静止。
ヒダルガリャ…空腹を言うなら食べさせて、空腹は酷だから。

ヒダクモウ…あぐらで失礼、略式にすわって、正座が無理で。
ヒタヒタ…ちょうどよい程度、あいばいよし、きちんと出来。
ヒダルデン……空腹でも我慢して、食事時間まで我慢して。
ヒダマジン……襞までつかって魚捕り、襞まててよいから。
ヒダケーウチ…まだ太陽があるうちに、日暮れまではあるが。
ヒダボーズ……襞の骨格周辺の関節、足の重要な位置。
ヒダマシデン……少しは口当たりが悪くても、爛が冷えたが。
ヒダマリン……太陽が遅くまで当たる場所、憩いの場所。
ヒダチュウテン…ひざと言っても、襞周辺の骨格や関節など。

41106

ひ　ビチビチ……元気のよい動き、跳ねまわって動く。
ヒチクジ……ぐずぐず長く言う、いつまでも文句が多い。
ビチットデン……少しでも正確に、まじめすぎる性格。
ヒチメンドシイ……恥ずかしがり過ぎ、几帳面な性格で。
ピチクリアガッチ…腫れた様子の外傷で、咄嗟に起きた怪我。
ヒチータ…干上がって水がなくなる、ひあがり草まで枯れる。
ヒチムツカシイ……非常に難しい問題、難儀な話にてこずる。
ヒチナジュ……人の機嫌を上手に取りつけ、見え透いた接待。
ヒチクジー……ぐじぐじ説教ながながと、面倒臭い説明に。

ヒッチーチ…くっついて、ひきつきまわって、べったり付着。
ヒッツリヒッパリ…辿ると縁故者の連なり、さきさきに並ぶ。
ヒッサコーチ……境が近いので困惑する相手、境争いの多い。
ヒッパリャ……引っ張ってみると、引くと連なっていた。
ヒッカヤス……乱暴に倒してあける、横倒しに倒してあける。
ヒッコヌグ……引き抜いてしまう、引きにくいがなんとか。
ヒッカケチ……弾きかけて、曳きはじめて、退く予定が。
ヒッコミガ……言うたものの答弁に困って、返答に難渋して。
ヒッテン…小便したのだが、小便の後始末を。大便は便所で。

ビッチョ……うどんなどの呼び名、小麦粉をこねて伸ばした。
ヒッパリタラン……曳き足らないので、引きたらないと緩む。
ヒックリカヤル……反対にころがって倒れる、反対に倒れる。
ヒッキリネエ……つぎつぎと入れ替わりに、途切れなく続く。
ヒッコヌイジ……引き抜いて使う、引き抜けば利用は簡単。
ヒッチョケ……そこで済ませたら、便所利用を、トイレに。
ヒツツキオウチ……べったりくっついて、仲良しな事で。
ヒッカケチョケ……そこに掛けておいて、掛けて乾かして。
ヒッテン……便所を使う、トイレに行って用事を済ます。

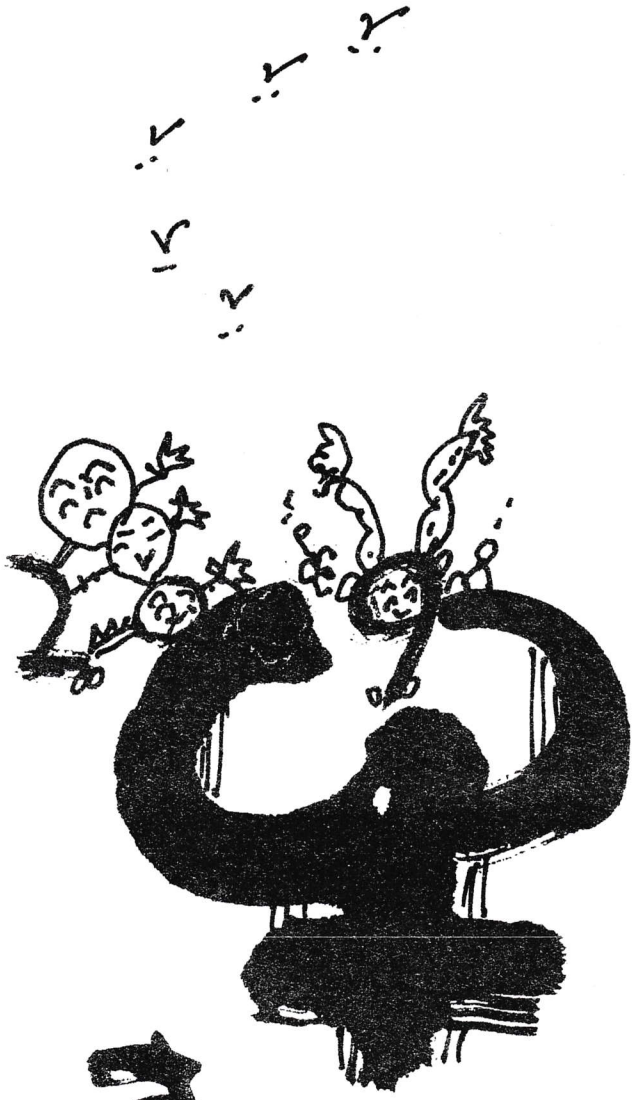
ひ　ヒデリャ…日が続いた時には、天気が続くいい面、干ばつも。
ヒデバチ……ひどい目にあって、大変な迷惑がかかった。
ヒテオケ……したにおいてください、下側において。
ヒデニュ……毎日貰う賃金は、毎日入るので便利。
ヒデカロウガ…大変でしょうが、ご苦労ですが、辛かろうが。
ヒデガアルシャ……すぐ加勢のある人は、すぐ間に合う労力。
ヒデバチ……ひどいめにあって、思わぬ苦難に出会い。
ヒデオイチョク……襞にのせておく、ひだが置き場に。
ヒデリソウ……松葉ぼたん、小さな可愛いい花が咲く。
ヒデンアメデン……天気でも雨でも、ぜいたくは言えない。

ヒドル……引き下がります、下がりましたが、引退します。
ヒトナミン……人並みの生活、健康でありさえすれば。
ヒトハラホセ……一回食事抜きして調整、健康管理を。
ヒトタ……一つは、1つであった、別の意味では、もう一つ。
ヒトハバ……人間の体温と同じ位の暖かさ、人間温度。
ヒドカッタ……ご苦労さまでした、大変だったでしょう。
ヒドシ……天気が多い年、晴天の多く雨の少ない年。
ヒトンモンモ……人の物も自分の物とする人、勝手気まま。
ヒドレ……引き下がりなさい、下がって。
ヒトンガンニ……人の物には、区別はっきりと。

ヒドリバナ…下がったのはよいが、危なく当たり。
ヒドシャ……天気続きは、雨も時折は。
ヒトコロ……ひと時期の追憶、回想する昔。
ヒドッタニ……引き下がったのに、まだですか。
ヒトヒロ……人間の両手広げた幅、昔の寸法呼び方。
ヒドラン……引き下がらないから、引き下がれないから。
ヒトンヘコ……他人のふんどし、他人を利用した取引。
ヒドカロ…ご苦労でした、疲れたでしょう、ゆっくり休息を。
ヒトハズミ……あわよくば危険な、咄嗟の時間で事無きを。

(41227)

女性の底力



一歩
すすむ

女性の底力　『お父さんを戦争に取られて』

『明日から麦カリするかのぅ』　日ごろにねぇ　声がかかるき嬉しかった。もうすぐ子どもも生まるる　が暑い夏じゃき　用心せにゃち　言わるるが　なんか生むチュウ　大仕事があるきかこん夏は元気がいい。じゃきか　今朝は珍しゅ　そげー言うぬ聞くと　『よし生むまえじゃき　甘えよる』　なんか言われんごつせにゃ。

鎌を研ぎよる側じ　『こびるは　火焼きじいいな』『いいど』それ以上ん無理ぅ　言うんアリモセンシ　出来もせん。百姓はいつまじタッテン　下積みじゃけんど　食うななんでん　あるき腹ひとつ食わるる。それがセメテン　取り柄じゃろうか。品物ん中にゃ　もう制限もあっち　切符制もあった。

『タバコは　持つたんな』『や　あっきぃ忘れた』　これじゃち思うたが　気立てが優しいき　人はいろいろ言うが　『ウットは一番いい婿じょうち思う』　親に平気で言う　若い嫁ごがユウ働くもんじゃき　いつもテマワシガイイ。『かかん下敷き』ち言うしもおるが　ユウ働いち　やうちが円満なら　人がいろいろ言うこたねぇ。

ドンバラ抱えち　麦カリ使う　イイデをカゴージ　作りよったが　『無理は悪いでー』ち　義母さんが　飛んじきち　心配しよ。『じゃな　ご免な　お義母さん　心配かけて悪いなえ』『そげんこたー　とげでんいいき　生まるるまじゃ　用心せんとな』仲のいい嫁　姑もお互いが　相手を思いあわこすん事。

天気がいいき　明日からは　麦刈りがでくる　空見上げち笑顔も　コボレヨルゴタル。そん夕方じゃつた。役場かる『状持ち』が自転車かる　飛びおるると　門口にたっち敬礼した。

突然役場かるん状持ちが　敬礼しよったき　戸惑うた。そりゃ『招集礼状が来た』　連絡でんあった。男は２０歳になると徴兵検査を　受くる義務があっち　みんな受けちょる。合格したもんな２年間　訓練受けた後　自宅待機じ招集に　応じち出征する。そん礼状が　持参されち　行くこちなった。

麦田に行っちょる　若い息子を呼びに　嫁ごは身持ちじゃき義母がツージ行った。途中じ隣ん子がおったき　『お前すまんがウチン　あんちゃんに　すぐ帰るごつ　言うちくれん』ち　頼んだ。そん子がこんだ　『あい　すぐ行く』ち　ツージ知らせに走った。戦時中はこげなうに　みんなが助け合いながら。

汗ふきふき一服しよったら　隣ん子が言うち　きたきタマガッチ『やつぱ来たか』　もう招集がくるじゃろう　覚悟はしちょったが　こん夏ん忙しい　それも　もうすぐ子が　生まるるかん知れん時にちも　思うたが　そりゃーもう　許されん。『おおきに　済まんじゃつたのぅ』　走っち家に飛びくうだ。

招集礼状じゃつた　開けちみると　０月００日００時まじに大分連隊に集合とあった。つまり指定された　時間までに　着くごつ　せんと時間に　遅れるんなら　そん理由を早くしらせ　そ例外はすべて　時間までに。『あんた来たな　もちっと先ならなぇよかったに』　これはどうにもならん。

あと３日しかねぇき　近所んしたちにも　無理頼んじ　麦だけは無事取り入れち　勇躍元気に出発ん　見送りを受けち　お国んご奉公に入った。残された若い嫁さん　歳老いたお義母さん　そり主人の弟、妹たちが　これかるは　頑張るこちなる。麦の取り入れた後は　田植えん準備　せにゃならん。弟、妹たちも義母ん指図じ　なんとか百姓に　頑張りよる時　義姉さんにゃ　子どもも元気に生まれた。これからが大変じゃが。

お接待の思いで

農村じゃ春と　盆後に弘方大師の　お接待行事がある。農村じゃ素朴な行事は　集まる機会でんあり　素朴な風習を年寄りかる　習う人ん巡り合わせ人生ん　絆を大事にする時でんあった。朝ゆくり集まっち季節ん　春は山菜中心の『ご目飯』　盆後にゃ『やせうま』なんかを　参った人たちに　お接待する行事。

隣組じあってん　いつも出会うのでんねぇ　生活環境じこげな行事をつうじた出会いじ　年寄りから習うことも　自分の身につき役立つこちーなる。お接待の後は　ゆっくり食事会になるが　珍しい料理ん仕方を覚えたり　初めち見る材料ん　説明なんか聞くと意義もある　『お接待ん日』にもなる。

春ん山菜でん　始めち知る食材の　取るる場所や姿　かたちなんかは　聞かんと解らん事が　多いもんじ知識も身につくもん。旬の山菜だけに　そん姿もかわいいもん。香りも独特　味が見た目たぁ違うんも　新しい発見でんある。年寄りん学も　これまた察知でけ　『あん人にこげな才能が』ち　見直す事も多かった。

使い道も各家ん秘法もある　それによっち完成品が　目先ぅ変え食感まじ変わるき　不思議な手法でんあろう。『これどま　変わった味になったじゃろ』『ほんと』　手さらに受けち　口に運ぶとそこにゃ意外な　答えも出ちくる。『こげーヘンゲするんじゃな』『面白いなぁ　珍しい』『珍しいわ』

若い嫁さんに褒めらるると　年寄りは有頂天まじゃ　ならんでん内心な嬉しい胸中に　まつりあげらるる。『あんた里はどこじゃったかなー』『関じゃき』『海風に当たったき　色が白いんじゃな』　そげー言われると　嬉しいの何の　『ばあちゃんは　どちら』『うっとう　久住じゃき田舎』『ちやぁそげんこたねえで』

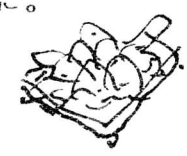
お互いに心を　褒め合う機会が二人の　親睦さを強うしたもんじゃき　それかる先は陰に陽に　まるじ親子んごつ　親しゅうなったき　婿じょうどま『お前ぁ　いつんなかめー　あんバアサンと仲ゆうなったんか』　不思議に思うたんじゃろう。昔かる難しもん　ち評判じゃつたになえ。

盆後ぁ盆の名残りんごたる　『ヤセウマ』が手っとり早ぇきもう決まっちょる所が　多いごたる。ヘギに盛った　きな粉をまぶし　ドクトクんビラ　昔かるきな粉は　体を涼しくするとか重宝がられちょる。ちっと貧しい家じゃ　そげーガイト作らん家もあったじゃろうき　お接待ならもう　ケンタイじ食わるる。

盆に帰った仏様も　天国に帰る時に　お供え物が多いと　それを縛って帰るにゃ　こんヤセウマが　シャントシチョルき　切れんじ持っち帰らるるき　便利ゆうありがたいそうな。仏の世界でん　持ちかえっち　帰らんじゃつた　シタチニモ分けち　皆んなじ食べたようじゃき　縛るには一番いいそうな。

食事会にゃチョロリ　いっぱいもあったき　若嫁ごはコソットあんバアチャンに　注ぎに行くと　笑顔じ『こんだ暇ん時キナーいいもん　ヤルキ』ち　耳打ちしよった。ドキンとしたが　嬉しいな天に上るごたる。帰っちこりゅう話したら　『お前は話上手じゃき　気にいられたごたるなぁ』　義母も真剣　喜びよった。

さっそく次ん日に　義母が焼いた『火焼き』ぅ　持つち行くとソワソワと　待っちょつた。『まぁあがんなぁ　義母さんな　何ち言いよったんかえ』『お前は幸せもんじゃなぁ　ばあちゃんに好かれち　ち　言うたんですよ』『そげー言うたんな　やっぱ偉いしゃ　言うこともちがうなぁ』　若嫁ごも　ギクリした　『あがりよ　こっち来なぁ』　茶の間に案内した。心が通じ合う　それもうわべじゃねぇ　心ん底かるん　味方同志ん証拠に。



『人の宿命は紙一重』

人には持って生まれた宿命がある　それは避けて通れんが　うまく生かすことで　幸せにも結びつけるもん。健康でありゃ　それに感謝する　そこから始まるんが　人生双六でんあろう。

健康こす幸せん原点じゃが　健康からまず安定する　そげな心くばりしよりゃ　やんがち希望も叶えられ　理想な人生も歩くコチーもなるごたる。そしていい人たちに巡り会う　それが大けな生涯ん鍵にもなるごたる。友達、学友、社会の先輩後輩　周辺の支援者、じゃが甘えは　一方的な好誼はやがて　飽かれかえって逆効果に。ナルンジャナカロウカ。そりゃ身から出た錆び　そんもんでんある。

苦労したがいい相手に　巡りあうた春ちゃんは　自分の貧しかった事を　てこに生涯伴侶と　頑張っち豊かな生涯を　過ごすそげな夢とロマンを　密かに抱いちょつたごたる。じゃき人以上の希望理想は掲げ　生活は人並み以下に　基準を立てたかる　子共にも恵まれち　無事社会人にも巣立った。

たとえ褒められなくてんいい　嫌われない人生じアリテー。そりゅう伴侶と基準に生きたんが　結果的には人ん羨むごたる　幸せ人生双六に結びちーた。じゃがそりゅう辿るにゃ　根性も質素も笑顔も必要じゃつた。どん一つコケオテテン　不合格じゃつたジャロウ。

人並みん人格にゃ多くの　支援があっちこす実るもん。にゃ努力惜しまんじ人並みよりゃ　ちっとダケ多く頑張った。借金はセンケンド　必要以上ん贅沢もせん。ち言うてんケチでんねぇ　生きた金ん使い方ぉする。じゃき金が金をつれち　帰っちきちくるる。

まず実行したんが　★　感謝ん生活ぅする。収入以下ん生活。家庭円満じ過ごす。金や物を大切にする。健康に心がくる。独立自尊の強い心。仕事を趣味として一事を貫く。常に節約する。儲けを宛にしない。つまり　物事すべてに感謝することで　時には自分も感謝され　生きがいにも結びつく。

えて華美になりがちな事に　絶対くじけい生活もなれると楽しさに変わる。…といってケチではないし　欲張りでもない。家庭は常に感謝しあうから　円満そのもので。相手を大切に尊重するから。金や物を大切にする　自分が大切にされるように。健康だいいちに生活することで　健康家庭になる。病気は早期受診早期治療。

独立自尊に強い心を持つことで　することに自信と喜びを満喫でき喜びが増す。仕事は生活の糧になる天職と感謝　定年まで大切に持続する。その中でつねに一歩前に出る　欲望も連そった勤務に精進する。つねに節約を旨として　資源は大切に利用できるものは　最利用もする心がけを。これはケチではない　資源保護の一環でもある。

儲けは平等に分けることで　働く意欲もましてくる。余分に収益の欲張りは　家庭を壊し身を滅ぼすことにもなる。儲けとは努力によって与えられる　ご褒美であるから　それらの関わり改善や場所環境改善に　振り向けるのが大事。儲けた分の影で支えてくれた物や　人があるはずだから　独占は悪質と思う心こそが　ご褒美になるものである。

春ちゃんはやがて還暦　でも年寄りとは考えつかぬ　笑顔の心豊かさがこの人の　人間的価値観を　仄かに香らせるまさに生きた　観世音菩薩のような　姿勢はこん人の心から　湧き出た自然の生き方の　お手本かも知れんなぁ。

女性の底力　方言説明

３７ｐ　生むな…生まれるの。そげー…そんなに。アリモセンシ…無いのですが。タッテン…すぎても。セメテン…心安らぐので。ウットー…私は。テマシュ…準備を。ドンバラ…腹がおおきくなって。イイデ…束ねるのにつかう。カゴージ…シャガミこんで。

３８Ｐ　招集礼状…軍隊にすぐ来るよう連絡。ツージ…飛んで。ウチン…家庭の。

３９Ｐ　ご目飯…季節の材料を入れた炊き込み飯。ヤセウマ…小麦粉を練って伸ばした帯状の麺。こげな…こんな。これどま…これなどは。なったじゃろう…なったでしょう。こげーヘンゲする…こんなにんかするもの。関じゃ…佐賀関。ちゃーそげなこたー…あらまぁそんなことは。

４０Ｐ　いつんなかめーか…いつの間にか。あんバアサン…あのバアチャンを。ヘギ…木の薄く裂いた食事用の皿。ビラ…麺の伸ばしたもの。ケンタイジ…自慢ぶって。シュントシチヨルキ…しっかりしているから。シタチニモ…居るひとたちにも。チョロリ…少し。コソット…そっと。ヤルキ…あげるので。ドキン…びっくりする。

４１Ｐ　ありゃー…あれは。そげな…そんな。しよりゃ…しているよう。やんがち…やがては。ナルンジャナカロウカ…なるのではあるまいか。アリテー…アリタイガ。コケオテテン…しっぱいしても。ジャロウ…でしょう。ちっとダケ…少しだけ。センケンド…しないけれど。

４２Ｐ　影じ支えちくれた…影から応援しちくれた。施しや準備なども。

一人じゃ生きられん人生双六

どげー威張った所じ　そん人ん値打ちは　知れたもんじ多くの人たちん支えが　ありゃこすが　人間の一生じゃなかろうか。

春ちゃんにしてん　相手んバアチャンも　苦労しち久住かる今はもうこん家ん　大事な宝物でんあろう。そげー思うといい人に巡り会う　そこに人生は『紙一重ん双六人生』ち　言うこちなるじゃろうなぇ。欲望も理想もあろう　こりゃ人間の心理じゃき　誰でん持っちょるが　それが理性と喧嘩を　せんだけじゃ。

ダマシ雨が降りデータキ　軒下に飛びくうだ。濡れた肩先ぅ手拭いじナゼヨルト　奥かる娘が来て　『おばちゃん傘さいて帰ったら』と　少し破れはしちょるが　蛇の目傘を差し出した。なんと優しい心くばり　『あらーすまんなぁ　借りてもいいお母さんは』『うん買い物で　オラノノ』『じゃあんた一人お留守番』『うん』

まだ小さな娘じゃに　なんと咄嗟に傘を……　目頭が熱くなっち……でん今日わ忙しいもんじ　小降りなったらピラピラツージ　帰ろうと思いよった。に　傘を貸してくれる　心優しいな勿論じゃが　そげな気くばりするごつ　育て躾しちょるこん家の中がパット　描かれるごたる。

遠慮のう借りて急いで帰ったき　用事もなんとか整い　恥もかかずにすんだ。翌日へ　干した傘を持っち　そん家に行くと娘は学校んごたる。『すぐじのーでんよかったに』『でも嬉しい娘さんの　気くばりに早く返して　お礼をいいたいち　思いお返しに来たと　丁寧にお礼を申し上げた。

傘は雨降りこす必要じゃが　普通はあんまり気にせんねん。じゃき借りたらすぐ　お礼を言うち返すのが　鉄則でんあったが　なかなか律儀に返す　そんな心がけは大事と　思います。しっかりした育ちは　きっと自分の幸せにも　結びつくもん。いいお嫁さんに　なることてしょう。支え合う事が人生双六なのでしょう。

方言絵本

45→

健康増進に活動する皆さんの　頭の体操用資料です。
古くからの生活用語だった　野津原方言60編。

花　トビシャク…ほうせんか。
テマリコ……あじさい。
ヒデリソウ…小松ぼたん。
オリバナ……万寿沙華。
シビトグサ……どくだみ。

食　ツキアゲ……ふらい。
キラス……おから。
ブエン……生き魚。
ドイモ……さといも。
アマジル……ぜんざい。

体　スバユル…乳多く垂れる。
ヤケハタ……やけど。
ツキヤク……月経。
チョーズバ……お手洗い。
ニイッタ……寝入った。

健　ヨロケ……弱い体質。
アバクル……広がって。
シカブル……もらしいて。
ドバキ……吐出して。
タゴカス……ねんざ。

遊　ユサンゴ……ぶらんこ。
ユキアシ……竹馬。
トギ……友達。
シイチョル…好いている。
ベベンコ……肩車。
★　シャツポ……帽子。
チギ……はかり、計器。
メンドシイ　恥ずかしい。
ローソク送電…節電対策。
ウシンド……散髪。

虫　ジョウラン……女郎蜘蛛。
ワクド……蛙。
ヤワタラ……青大将。
キナ……ばった。
オクサン……ネズミ。

衣　イマキ……腰巻。
ノコギン……野良着物。
フセ……補修。繕い。
オトシ……ぽけっと。
ズロース……女性用下着。

世　ヘモドル……帰ってくる。
ヨダキー……大義、心疲。
ドークル……戯れる。
トワズ……冗談。冗談説。
クサレ……意地悪。

習　キモイリ……地区世話役。
ハイヨセ……火災後整備。
カミチョウズ…部屋便所。
ウシミ……嫁の下見。
スラ……冗談。遊び試合。

家　ヒヨケ……瓦葺き屋根。
タケドイ……割竹の水樋。
コマエカケ…壁塗前竹組。
キドグチ……屋敷入場所。
フスボル…火煙保存知恵。
★　イタジキバライ…反省会。
イチツクバル…返事困る。
アブメンタマ…５０銭玉。
ホゲ……無茶な言い分。
オジー…怖いおそろしい。

いくつか全く　知らなかった方言も　あったかも知れません。地域によって　何回も合併がくり返され　いろんな方言が交錯しちょる　そげな事もあっち　けんどソレジャキ又　方言のよさもあるんでしょう。『トビシャク』　ほんと種が実ると　ぱっと当たった瞬間に　種がはじけ飛び散り　その袋はクルリつと　曲がってもう　種は帰れない宿命。

花が盛りの頃は　花びらをとって揉むと　ピンク色ゃ赤い汁が滲み　子供の可愛いい　手はきれいな染め色に　変身しています。茶碗にいれると　美しい乙女盛りの　肌の色にも想像が　出来て『ままごと遊び』も　雰囲気が醸しだされる。庭先が絵に書いたような　舞台に早変わりです。

『シビトグサ』なんかは　医者いらずとも言う。『アマ汁』ん次ん朝は　競争じ早起き　冷たいんも美味しい。冬ん寒い朝は歯に染みこむようじゃが　口はユスガンと　頑張るほず久しぶりん甘いもんは　心まじゆたかになる。『スバユル』ホズ　乳が多いいがある反面　足らんじ米をスッチ　砂糖をチット入れ　乳ん代わりしよった。

『ローソク送電』は　戦後ん厳しい頃にあっち　晩方なると電気が暗うなっち　『ろーそく送電』ち　言いでーたが　商売はそげな隙もチャント　捕まえちそげな時でん　普通並みん明かりになる　電球が売られよった。『ウワシンド』ん　『わ』が抜けちしもうた　ご免なさいね。本当は『ウワシンドウ』じ　散髪に行くと頭が美しゅなるき　家ん屋根変えと　一緒じそげー言うごつなった。いろいろ考ゆるしも　そりゅ又使うしも　世の中皆んな連なっちょるなぁ。そうそう籠担ぎが　ハリコミヨル　じゃがそげなしの草鞋ぅ　作るしもおる。乗る人。担ぐ人。そん草鞋作るしと　なんかピョンピョン　ハシルごたるなぁ。じゃきお互いイノチキ　出来るんじゃなぇ。

ヤワタラが家に住み着く　これじオフクサンぬ　退治しちくるる　ヤワタラ…青大将が天井におるき　見つけたら早ぇのなんのオフクサンな　米を食うたり布団のなかじ　仔を生んだりするき　そりーヤワタラは　人間にゃ害がねぇ　優しいもんじゃき相互に　助け合う主でんある。ヤモリもそん仲間に入る。

カミチョウズ場　これどま今じこす　どこでん家ん中が定位置じゃが　昔かしゃ外がホトンド　ドゲー激しい腹下しん時でん何べんも　外に出ちゃ用事すます。若い嫁さんどま　暗いもんじタンビ婚じょうを　起こしちゃ連れなう。よっぽず豊かな家ん隠居部屋ん脇どま　アッチ廊下伝いに行く。手洗い鉢があった。後にゃ伽藍水入れが　吊り下げられち　下かる指じ押し上ぐると水が　出ち手を洗うちくれた。こげな場所ん事で。

ホゲ言うと　イチツクバル　無茶を言うと返事困る。トワズも時にぁ愛敬じゃが　メンドシイナェ。イマキん下かる　ズロースが見えよる。白木屋デパート火災ん時　女性店員が慌てち　飛び下りたもんじチラリ　ナエ見えたりしたき　それかるは　女性は腰巻だけじのうじ　ズロース着用になった。

キラスんじょう食うてん　サカシイしもおるで。そげー思うとヨロケがシカブル　むげねーけんど　好きじするんじゃねぇ。サカシインがヤッパ　一番幸せじゃなぁ。シイチョルしが喜ぶ。ウン見がキテン　もう間におうちょるち　トギト大笑いしよる。フセタノンデン　のこぎんじゃきいい。オトシ入れち来た　イチン玉をヤルト　飛びあがるごつ喜びよった。

ドキー行っちょつたんな　ヘモドルしに聞くと　手をタゴケーチ　メンドシーが　ハリイさんに　行ったら留守じゃつた。帰りシビトグサゥ　モロタキ　インジ練っちツクリャ　ハレガ引くんと。

祝言に呼ばれたもんじ　羽織を着こんじ　歯磨きぐれしよチいわれち　はげしゅ塩をつまみでーち　指先ツクルト　ゴシゴシケッコウ今でん効果が　あるちゅう話。シャツポかぶっち　チギゥ捜しよる。『何するんな』『いんにゃ土産ん　オシモンがドッチガ　重いかかけち見ろうち　思いよる』　みみっちーぁ。

歯のていれはヤッパ　さんどさんど　食うた後じ磨くんが　いいらしいがドゼン　忙しいゴタリャ　晩の寝がけは　シッカリシャント磨くがいいらしい。歯は丈夫にシチョカニャ　一生使う道具じゃきなぇ。歯、目、マラ、ち一番先に　痛みが始まるんと　どこが悪ぅでん困るが　自分がんじゃき　大事せにゃなぇ。家賃も下宿代も　クレンデン　大事しちゃりょ。

江戸時代になっち　たばこも入っち来たらしい。がすぐ真似するんが　悪い癖ん人間。いつんなかめーか　覚えちプカプカ　煙りゅあげち　威張ってんなぇ　偉えたー誰も言わんが　一つも為にゃならんでん　害にゃなるらしい。戦時中は配給制じ　足らんと吸いかけをひろうち　バラスト紙に巻いち　再生たばこが　出来るとスパスパ。

タバコ巻機械もあった。たばこ作りんしに　無理頼んじ分けち貰って　吸うかち思うと　たばこにゆう似た　金いちごん葉、ミソモリン葉、何かを乾燥しち　刻んで巻き吸う　芸達者もおった。吸い始めたら　なかなかやめられんき　挙句にゃ値上げになってん　たばこ銭な工面が　ゆうつきよったらしい。

刻みたばこを　キセルじ吸う　火がらをチョコト　手のひらに受けそんなかめ　次に詰めるのを手先じ　丸めちつめたら　手の中ん火にさいだす。ゆう熱くぅねえんかな　不思議じゃが　それだけ吸う執念が　熱くねぇ秘訣を　体得するんじゃろう。キセルに執念の人が持つ　つはものは　輝いちょつた。

メゲンサマ《名月様》が　９月ん中旬になるとある。昔しゃ旧暦じゃつたき　今なら１０月じゃろうが　農家んしも季節ん変わりが　早いもんじゃき　新暦ん９月に作物が　間に合うごたる仕組みになっちしもうた。こん日はお月様に　供えち作物に感謝する　習わしが続いち　そりゅうコッソリ　子供がサゲチイヌル　そこに作作りする　人たちん喜びが湧くもん。

名月様ん日は　柿をチギッテン　罪にゃならんち暗黙ん　了解もさるるごつ　農家も作に感謝する　気持ちになるんじゃろう。柿も食べ頃になっち　みなみな柿を植えちゃおらん　そげな子供にも『食べさせにゃムゲネエ』　情愛んお接待する気持ち　それがそげな風習に　なったんじゃなかろうか。

メイゲンサマに　供えるな　手ミーに乗せる　一升升に野菜や果物が　山と積まれてある。家の人が供えち　帰ったぬ見計ろうち　影から子供たちが　そんお供えをさげに行く。風呂敷に包んじ草履ぅ　バタバタさせながら　イヌルト家んしが又　お供えをシカエチ　次ん子供が来るぬ待つ。

月はヤンガチ　頭ん上まじ来る頃にゃ　真ん丸がチット　こんも見ゆるが　そん下じ影がくっきり。飛び回る子供ん　元気な姿は平和そんもの　のぞかな農村の　素朴な状況が醸しだされよる。供えたナス、キュウリ、クリ、イモ、カキ、ナンカも　入っち豪華版。農家以外の子供たちにゃ　珍しい宝物んごたった。

気の早い家じゃ　ヤキコメ　ツキモチ、なんかがあったりしち思わず歓声　あんまり大きな声じゃき　子供同志が『こりゃヤカマシイド』ち　自制しよった。楽しく好奇心も　燃えた名月様も　時節により時代ん　移り変わりに乗って　様変わりしち行く。けんど月と人間の関わりは　やっぱ今でんデージ　しよるごたる。

◇◇◇　ホウゲンセツメイ　◇◇◇

４６Ｐ　けんど…けれども。ソレジャキ…そうですから。ホズ…程に。乳ん代わり…沸かして人肌にさまして飲ませる。チャント…しっかりと。

４８Ｐ　ツクルト…つけると。シャツボ…帽子。チギ…はかり。オシモン…らくがん。マラ…男性性器。クレンデン…頂かなくても。バラット…分散して。つはもの…達人。

４９Ｐ　なつちしもうた…なってしまった。そりゅう…それを。サゲチイヌル…頂いて帰る。チギッテン…もぎとっても。ムゲネエ…可愛いそうで。ヤンガチ…やがて。こんも…小さく。コリャヤカマシイド…お前たちはうるさいど。デージ大事。

五助さんもチョイト　一服しよったら　思わん話がハズージなえでん《デモ》　マタでぇぶん《だいぶん》　知った事も多いでしぅ。知るは大きな儲け　知らぬは一生ん恥じ。まぁそげなことになるんです。農村にゃ古くからん《からの》　風習が多いけんど　それがあっち《あって》　お互いん気持ちも通じあい　誤解んねえ《ない》　楽しい暮らしも　約束さるる《される》もんです。

それによっち　お互いが助け合う　知恵を出しあい　貰ったりもする事じ　相手の心情も解り　自分の人間性も　解って貰えるもんでんある。方言にゃそげな《そんな》　痒い所に《知りたいような詳しい点》も　自然とそん言葉使いじ　理解も出来るもんでしょう。知ったら思わず　一つ知恵がつき　生活上手にもなりそうです。そこに生きている　生活上手のポイントも　獲得出来るかも知れません。

通算１５年あまり地域の　老人クラブ役員をヤリヨッタガ　そん行動力といい英知といい　特異性も持合わせ　チョツタ。じやき脇役もそりー刺激されち　画期的な行事が展開されよった。心が通じあやーヤルコトモ　成果に結びつきよった。会員も笑顔じ動けるるもんな　手足んごつ活動しよる。

交通安全運動じや皆んな　車にゃノランケンド　人ごとじゃねえき　声がカカリャ出揃うもんじゃき　そん機敏な行動は事故防止にも　大けな役割りがあつち　南警察署、大分中央警察署かる　破格ん表彰状も受けた。中央署長表彰は　会長がドシテン行けんもんじゃき　代行が出席したが　そん出で立ちが何と　交通安全運動ん服装じゃもんじゃき　列席者ん目も引き　日ごろん活動が現れちょるち　格別ん評価もされた。

学校が週休２日制になった　そん時じゃつた。町長さんかるん相談があっち　『余暇利用がいかにすべきか』　聞かれた会長は咄嗟に『老人クラブも協力しましょう』と　とにかく夏休みかる　『ラジオ体操とげじゃろうか』　意見一致じ早速毎朝の体操会　効果がユウジ　ちったウルサイノウち　苦情もありよったがそん都度おわびと説明に　走っち自然と同調シチクレ　見事なそん企画にゃＰＴＡ　老人クラブ　一般組も参加シタモンジャキ　広場にゃ平均６０人ナ　集まり体操がサレヨッタ。

大分合同にも話題になっち　県の老人クラブも　取材に早朝のかけつけと俄かに　そん話題もひろまった。こん話題の広まりに翌年の　大分県の『全国ラジオ体操会場』も　玉の輿じゃチットオオゲサジャガ　野津原中学校かる　２０００人が集まった会になっち　会長も『やれば出来る』　行動の気持ちと支援してくれる　人たちの優しい心ん　応援はいつまでん　思い出に残ったち語り草にしちょる。強引じゃのうでん　やれる参加出来る　そんな人たちん結集が　結果として残した　宝物じゃないかなぁ。

話す、書く、行動する、やる気がありゃ　皆んなもチーチ来ちくるるもんじゃ　姿勢が直立じゃつただけに　童顔の波多野直人のやる気は　任期の間は責任もった　努力を惜しまず　脇役との相談協議　会員には無理強いせんじ『出るるときに　出ちくるりゃいいんで』と　率先した動きと気くばりが　１５年もゆう頑張った原動力でんあろう。

ラジオ体操ん前に　チョコット歳時記を　毎朝放送しち季節ん感触。時にゃ盆の行事、祭りん由来なんか　地区だけじゃのうじよそん　人たちもそん　歳時記やメモ放送は　ユニークじゃつたち　定評が今もつたわる。残せたもんがあるなんか　幸せ人生でんあったごたる。

県のスポーツ大会に　故郷ん民芸品の　草履を出品したところ時の　県知事さんも欲しそうな　後じ送ったと聞くと　そげな人ん心を気持ちを大切にした　奥ゆかしさも兼ね備えちょつた。引退後は読書や語り部など　趣味を生かした笑顔は　当時の行動力が　嘘のように感じられるが　それだから英知も浮かび　人の心を大切にした　情愛が温存サレチョルンジャロウ。

バイク乗車が好きで　かなりん遠距離も　走った体験が各地の産業、民度、人の気持ち、などにもふれられると　周辺はほとんどを走破したよう。かって国鉄駅長でんあった　規律正しい性格があるが　それが責任感にも　人の世話の大切さも　肝に命じた活動になったんじゃろう。

話は途切れなく続いても　聞き上手な人間性は　何時間でもそんラストを　伺えないのも嬉しい程じ　知りえた知能才覚は　も少し若かったならと　惜しまれるがそんな　肩書きは敬遠されそうなのじ　口にはだされんじゃつた。いつまでん元気じなぁ。ニコット笑う笑顔が千両顔。またシャベロウエナ。

宿場町ん下ん原にゃ

肥後領地になっち　加藤清正は愛宕城麓にあった　武蔵庵ぬ移転しち　下ん原ん高台に移し　街道行き来する　『道中安全の祈願』ぬ　ここじしよった。自分は勿論の事　領民でん旅人でん　みんなが我が領地を旅しよっち　怪我やら過ちがあっちゃ　世間に顔向けが出来んち　熱ん入れかたじゃつた。

アベトでん馬が落てたり　そげなこた一許されん事じゃち　こきぃも祈願の塔を建てち　それかるは事故もノウナッタ。

下ん原にゃ宿屋があり　高級料亭もあったき　夜どまそりゃもう遅ぅまじ　賑やかじゃつたそうな。大けな屋敷構えじゃき　どげー多い旅人でん大水じ　川が渡れんでん　何日でん泊まったもんじゃき　そりゃもうお客様様　『明日ヒヨリか　窓ん灯あかり　宇曾に雲たちゃ　願いたい』ち　馬子歌にもあっち　客引きんしどまにゃ　雨が財布を　大きゅもした。

前にゃやっぱ野野台かる　移転しちさらに　こん場所に来た寺も街道行列ん時どま　一夜の宿にもなりよった。５４万石ん殿様じゃき　そりゃもうケチケチもせんじ　野津原かる行列も作っち　出るもんじゃき　猫も杓子も賑やかじゃつた。のろしがあがると　番所に代表がツージ来る。そこじ行列ん部署が決まりよった。

ナンサマ早い者　順じゃつたきトブのん早ぇこと。ソコラジュウん　ゴミュウ巻き上げち　後にゃ小石だけ残ったち　年寄りが言うぬ聞くと　マンダラ嘘でん　ねぇごたる。大人数が供揃いしち　これかるイヨイヨ他領を　通るこちなるんじゃが　そかぁ又それなりん　手立てもありよったそうな。とにかく　ここかる鶴崎まじでん　臼杵領、府内領、延岡領、天領、まぁまあ　とにかく　大事が先に連なっちょる。

そん東にゃ水路挟んじ　荷物やら旅ん客も乗せた　『立て場』があっち　足ん不具合な人たちん　利便がされよった。宿場町ん中じゃつたき　幕末になってん　企画が進んじ旅籠、料理屋、商い店、が所狭しと並び　大きな建物ぅ　二つんお寺。そん一つが清正が移築した武蔵庵　のち細川領主になっち　新築しち法護寺となり　清正公堂も完成した。

北側には善称寺が完成　宿場はじめは波多野家系で　のち山崎系で現在に移行し　寺域にゃ大きな弘法大師の　立像が見られる。南側には江戸後期まで　旅籠、料亭、が発展開花で　郵便局、個人商店、などがあっち　旅人や地域の　生活に効果もあげちょった。入蔵かる北に抜ける　幹線がここを貫き　竹の下かる平野　横瀬に抜ける幹線に。

古町とん境にも平野かる　野津原経由じ　入蔵を上っち大野に出る　これが幕末まじ　大きな役割も果たしよった。４００年あまりん　江戸期間にゃ　東に恵良村を通る　街道にも人家が並び　ここは道の後に　人家が並んだかる　前庭が広うナツチョル。道幅は始めん街道よりゃ　狭えけんど　前が広いもんじゃき　道幅も広ぅ見ゆる。

そしち西にも地蔵谷ぅ　埋めち権現村ん　寺町まじ伸ばしたきもう全部ヒックルムルト　大方３００メートルは　ありそうじゃ。特に真ん中ん　お茶屋《お陣屋》入口中心の　道幅は約８メートルもあるき　こん４００年ほず前に　『こげな広い道ぅゆう』ち　タマガルシガ多い。

ジャケンドそれだけ　清正は先の先まじ　読んじょつたんじゃろう　ソンクレー肩入れシタンカン　知れんなぁ。武人じあり地質にくわしい　情愛ん強い　しかも地元領民と　絆強めち施政を進めた　そん人間性が今も　大事にされちょる。

古い歴史をもつ野津原

今かる５０００年も前かる人間が住んジョツタ…ソゲナ遺跡史跡がアッチ美しい水ヤラ　山谷ナンカガ人間のイノチキにゃ　格好ん場所ジャツタンジャロウ。そジャケンド…そん頃ぁ本町ぁまータイシタ事ぁなかったゴタル。回りが早ぅ拓けち恵良ヤラ権現ニャ　もうすぐ集落が出来ち野津原ん　原点になっチョツタ。

本町ん南側にある愛宕山にゃ　ヤンガチ浅内かる出たシガ鷲が城を造った。苦を見たモンジャキ人柱を立てち鷲と　一緒に助けを借ったあげくに出来た。そん供養塔が残されチョル。そん頃カルソジャナー４００＝５００年あまりん間　水と緑と住む人たちん人情がご褒美にクレタンカ　『府内ん小京都』ちユウ言われヨッタ。

古市《現在の１、２班あたり》がアッチ　あっちコッチカル人が集まり　やんがち物物交換の市が出来ち　ソウコスルウチ平野祇園神社と権現の白山神社ん　お旅所も出来ち定期的な賑わいもあり　庄内、谷、判田、戸次あたりカルモ　交換に来よったモンジャキ　ソリャモウ賑わしゅうじそん日は　女ゴシは化粧しよったち言う。

寺町《現在の４，５班あたり》にゃ戦国時代ん墓が多うじ　寺町とん言いヨッタガ…当時は権現村寺町ち呼んじ権現かる広がったごたる。ヤンガチ地蔵谷《現在の役場西側道路から梅田前あたり》が埋められち　古町と寺町がだんだん広まっち　やんがち結びチーチしもうたモンジャキ　現在の本町が出来上がったんじゃ。

今デン『寺町』チュウナーそん頃ん名残りが　人ん心う掴んじよるケンカ故郷を愛する現れか。『下町』ち言う名前がアルナー肥後領になっち　お陣屋が出来た頃かる熊本ん方が『上町』じ　そん反対つまり東側が『下町』ち言うゴツナッタ名残り。使い慣れたもんじゃき親かる子に孫に受け継がれた　生きた歴史デンアル。

紆余曲折の移り変わり　◇◇そん頃回りじ変身が◇◇

野津原ん地名がチーチかる　ヤンガチ平安…鎌倉…室町時代になる。こん頃ん主なもぬー書いちみると

平安…諏訪神社が出来る。高岩神社も出来た。
１１５０年代…全国１２０ヶ所に皇室領があり野津原にもあった。
１１９０年代…繁見城が出来る。
１４２０年代…宇曾岳社の奥の院が出来た。
１４５０年代…上詰で刀剣が造られていた。
１４８０年代…菊池軍大水による敗退。
１５５０年代…大田魔崖仏、板碑などが出来る。

大友時代が終わっち　石垣原ん合戦があっち野津原からも　ぜーぶん参加したが　そん出陣前に決死ん覚悟じ造ったんが　『逆修墓』じゃつた。１５７３年代じ当時ん武将ん勇壮さが解る。

１６００年代になっち肥後領になった。今市ん石合は天領　今市は岡領になっち明治まじ続いた。
１６１５時代…参勤交代が制度化され　今市、野津原に宿場町が作られち　あんげこんげするしが便利になった。今市は岡藩の殿様の宿と肥後藩の殿様ん休憩所。野津原は肥後藩の宿…お陣屋…になっち賑やこうなった。

１６２７年代…大飢饉があって食べ物に苦労する。
１６４９年代…新町の家並み《企画型》が出来た。
１７４８時代…今市丸山八幡の楼門が出来た。
１８１４年代…伊能忠敬全国測量で野津原にも。

本町の周辺じこげんような発展がくり返されち　村が大きゅうなっち行く。まさに合縁奇縁の人生すごろくじゃろうな。

そうこうしよるうちー明治になった。

明治２年…野津原は熊本県鶴崎ん管轄に入っちょつた。

明治４年《１８７１》大分県下に統一になっち　野津原は大分郡に入り７村…今市は大野郡じ３村になった。

明治８年時代…熊本領分野津原＝４村、諏訪＝５村が　それぞれ明治２２年に合併。それかる明治４０年に野津原村にひとつになったもんじゃ。

明治１１年…郡制施行で大分郡になり役所は大分に。

こげんふうな移り変わりん中じ　野津原はしっかり七瀬川ん美しい水に育てられた。そん七瀬川もはじめにゃ赤坂川ち言いよった。それが参勤交代が始まっち行列が　七つん瀬を渡っちゆくこちーなっちかるは　七瀬川ち呼ぶごつなった。瀬渡りが交通手段の一つでんあったき　瀬ち言う言葉にゃ愛着と苦労が隠されちょるごたる。

★　賢明な思考より慎重な行動が重大である。

★　老人は教師として若者より秀でている訳ではない…得たものより失ったものが多いからである。

★　生活については常に満足せよ　然し自分については決して満足するな。

『どげーなダッタンジャロー』『ショワーネーガやんどどうドゲェカ』　五助さんなやっぱ集まった皆ぅ気づかいよった。仕事ぅヨコワセタケンド　それも又そんぶんな取り戻すじゃろう。そんくれん抜き差しがねーやたードンコンナランノーヤ。

米ん値段もでーぶんアンゲコンゲした。２２０年ほずまえかるん値段ぬ見労ろうかのぅ。百姓が８８偏かけち造った米さまじゃき。変動が激しいき農家んしもオオゴトジャツタジャロウ。麦ぅ小麦ぅ植えた苦労ヒジイチ言うが　そりゃもうやったしじゃねーとの。

米ん値段の推移

天明時代…１７８２年　１７銭。
　　１８３３年　３８銭。※１８３２年…人口２７２０万。
明治元年…１８６８年　１円４２銭。
　　１９７８年　１円３４銭　西南の役。
明治２１年…町村制制度　１円４２銭。黒田内閣。
明治３７年…日露戦争　４円３６銭。
明治４２年…米検査制度　４円。
大正元年…１９１２年　８円３２銭。
大正９年…人口５５００万人　２０円。※　大正８年戦争米騒動。
昭和元年…１９２６年　１２円７０銭。※　大正１２年関東大震災。
昭和１６年…大東亜戦争　１６円５０銭。
昭和２１年…１９４６年　戦後　２２０円。
昭和２７年…３０００円。
昭和４４年…自主流通米に　８２１８円。
昭和５６年…１９８１年　１７６０３円

※　価格はいずれも政府の基本価格。このような変貌の中で農家は自分の作った物に　自分で値段をつけられない長い時代。戦後一時ヤミ米が流通したがせめても溜飲の下がる思いがしたのでは。ヤミぶげん、ヤミ太りの名言がつけられたが　一時的なものであったので元の木阿弥になった人も。本町の場合は対象農家は少なかったようだ。最近の減反や減収がたたって輸入米に頼った　凶作の年には都市の人たちは仕方なく　外国米を食べざるを得ない失態は　瑞穂の国の米を粗末にした裏戻しか。

こぼした飯粒は拾って食べなさい…目がつぶれるよ。仏飯をあげに行く子供の手についた飯粒は　お供えした子供の優しさのご褒美ともいわれた。仏飯をさげて仏具の匂いがする食感は　そんな心の結びつく素朴な解釈かもしれない。可愛い子供の手に仏具がキラリ光る朝の一時　心も洗われる思いが。

開拓青年の根性生生涯生かされて

戦時疎開じ野乃台に入った　川西哲生家族はへき地ん　厳しい現実にユウ耐え忍んじ　２３歳になるまじ苦労に　挑戦しちいつも力を試す一途な底力は　故郷で僧職となった今も　『あん日があったきこす今がある』ち　当時ん生活に周囲ん人たちの　励ましに感謝を忘れぬ功徳の日日。

中学生ん頃百姓入植かる　開墾や水稲栽培ん改善　青年団時代にゃ『労働軽減による農業経営』ん　地区内代表としてん　実績発表会じ１位獲得　郡大会でん２位になり　県大会まじ進んだ栄誉は自慢して一が本音じゃつた。先輩に報告すると『まっと歩け』ち発破かけらるると　取り組んだ培土機。購入利用者かるも　指導ん要請にも飛んじゆく身軽さ。

増収ばかりかそん　軽減された労力は　タバコ、疎菜栽培、畜産にも振り向けられち　現金収入が大きゅう上がる壮挙。苦労承知の親たちも息子ん英知　アイデアにゃシャツポ脱いだそうな。冬の寒さにも焼いた炭を　背おい農具に重ね積み　坂道ぅツージャ売りに行くと　『孝行息子ん炭なら　買わんわけにゃイクメー』チ　買う百姓したちも営農方法を　チラリ聞いたりしたそうな。

じゃが山の奥ん青春時代にも　限界があるち感じたら　故郷ん海じの新天地に向けち　思い切りもいいサット　砂塵舞いたつるごつ故郷じ開運業。続いて製麺業　さてはビル管理業と　乗り換えたんもことごとく　展開見事に実績もあげち　母親の他界とともに今度は　僧職に衣替えする転身振り。巡り会わせたそん変身も　人を大事にして来た自分の過去が　そんな道もつけてくれて『進めよ』と　宿命の軌道でもあったのだろう。人は無駄のない苦労なら　しておく事が重要と聞いた　それが宝物じゃつたち　振り返る時あん眺望がこげー大きな夢を　広げちクレタンカン知れん。

◇◇◇　方言説明　◇◇◇

５１Ｐ　ヤリヨッタガ…していたが。カカリャ…かかれば。ドシテン…どうしても。シチクレ…してくれ。シタモンジャキ…していたので。サレヨッタ…していた。

５２Ｐ　チーチ…ついて。出るるとき…出られるときに。チョコット…少しの間。だけじゃのうじ…だけじゃなく。サレチョルンジャロウ…されているのでしょう。

５３Ｐ　ナッチ…なって。ここじしよった…ここでしていた。あっちゃ…あちらは。こきいも…ここにも。ノウナッタ…なくなった。どもはそりゃもう…などはそれはもう。ドゲー…どんな。やっぱ…やはり。ツージ…飛んで。ナンサマ…なにしろ。そこらじゅうん…周辺いったい。

５４Ｐ　あまりん…あまりにも。ヒックルムルト…一緒に合わせると。タマガルシガ…吃驚するひとが。ジャケンド…ですが。ソンクレー…そのくらいは。シタンカン…したのかも。

５５Ｐ　ソゲナ…そんな。ナンカガ…などが。イノチキ…生活。ソジャケンド…そうですけれど。なッチョツタ…なっていた。モンジャキ…ものですから。ソジャナ…そうですね。クレタンカ…いただいたの。ソウコウスルウチ…間もなく。モンジャキソリャモウ…ですからそれはもう。ヤンガチ…やがて。チューナー…言うのは。デンアル…でもある。

５６Ｐ　ちーちやんがち…ついてやがて。あんげこんげ…あちこち。

５７Ｐ　コゲンフウナ…このように。ダッタンジャロウ…疲れたのでしょう。ショワネーガ…大丈夫だが。ヤンドドウ…あなたたちは。ヨコワセタケンド…休ませたが。ヒジイチ…辛いと。ドンコンナランノー…どうにもならず困る。

５８Ｐ　ヤミ…違反な取引。目がつぶれる…目をつぶした。

５９Ｐ　ユウシヨク…よくしている。アッタキコス…あったから。まっと前に…ずっと前に。シャツポ…帽子。ツージャ…飛んでわ。クレタンカ…いただいたの。

ওয়ার্ল্ড

◎◎◎　ふるさとの味　ミョウガお結び　◎◎◎

初夏になると緑の　葉っぱの影から　美しいミョウガん子が　ニョキニョキ頭でちょる。独特ん香りがこん　夏ん暑さまじ香るんじゃが　刻み加薬が　普通に利用ん技。そりゅう　ひとつ工夫しち　ミョウガを小刻みし　シラス干し魚と　飯に炊き込むと　風変わり珍品が　出来上がる。

嫌いな人もあるじゃろうが　好きな人が　病み付きになる例もあっち　こん時期だけん　おいしい珍品お結び。そんままでんいいけんど　神仏さまには　盛って供えた後は　手頃な太さのお結びにして　好みの化粧は　三つ葉、せり、しそ、山椒、ごまなんかを　まぶす　添える　事じ風格も　見た目にも　美しい。

炊き立ての新鮮さ　少し冷ました落ち着いた味　3．4時間のいた頃の味。それぞれの移り香が　独特な風合になっち　そん味を左右もしちくるる。それは食べる人　それぞれん感触かん　又見た目　食べた舌障りや　味の通過により　喉越しにも微妙に変化を見せちくるるごたる。

独特な風味の利用は　故郷ん食文化にも　ことなる味を残すお結びができたのん　同じ材料で　異文化をあじわう　欲望が心を満たして　食べる幸せや　食財にたいする　感謝の念の発露かん知れん。感謝しち食べる　高貴な考えは　物すべてが巡り会う　宿命に結ばれちょる　有難い気持ちかる　受ける人間本来ん『いただきます』精神に　自分が感謝した　現れかん知れん。

お結びしたんなら　そりゅう竹の皮に　包んじ保存すりゃ　これまた　保存効果もあっち　来客にお接待さるりゃ　風格が一段とあがる　おもてなしん気持ちに　ピッタリン　ご馳走じゃなかろうか。ご馳走は心でんある。

『日の丸弁当』

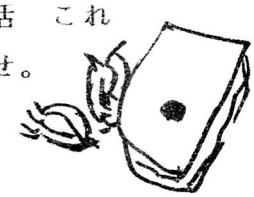
戦時中にゃゆうはやった　『日の丸弁当』正確にゃ　ほかに入るるもんが　なかったき　梅干し一つ入れち　当時は通りよった『日の丸弁当』と　言うともうソレジ　通りよった早ぅイヤー国策的な　代表格でんあった。言い訳も無用じ　どけな暑い時期でん　梅が殺菌作用も　しちくれたかるこす。

山仕事、遠足、旅行、なんかでん　あんまりゃ　オカシュウワなかった逸品。そん代わりアルミニュウムん　弁当箱どま　すぐ痛むもんじゃき　用心がいりよった。握り飯にしてん　中に入れちょきゃ　食べる時に結構　塩分が馴染みよっちか　あたり捜さんでも　順に食べられよった。

竹ん皮に包んだ　こん弁当なら　途中じ困った人たちに　あげてんチットン　おかしゅうはねぇ　お接待にも回いちょつた。戦地にゃ食いもんも　乏しい頃もあっち　おまけにそん　オカズなんかもう　ねえ日もあったが　梅干しでんありゃ　兵隊は凌ぐ精神力は身に　ついちょつた。

じゃき梅産地ん　紀州かるは４斗樽につけた　梅干しが戦地にゃ　届いち　給食ん時にゃ　はんごうに麦飯と　うめぼし２つ。簡単明瞭じ不公平もなかった。銃後生活も大事じゃつた　ごたるが戦地にしてん　いよいよ終わりん頃にゃ　梅干しでんありゃいいほうじ蛙、蛇なんかも　ご馳走んうちじゃつた。

日本人な昔かる野菜主義　食生活も戦後は変わったが　体質に合う食べ物が健康維持も　調子がいいごたる。贅沢と栄養は違うが　肉魚が絶対必要か　野菜だけじゃ悪いか　研究勉強しちこす自分がん　健康体力は維持さるるち　思うが似合う食生活　これが肝要じゃあるめーか。サカシュシチョツテくださいませ。



『焼き米の味』

農家が秋になっち　田んぼの水を外す頃になると　周囲に溝を作って排水をユウスル　仕事があるが　コン時に植えてあった稲を刈り取るんを　溝狩りち言う。こりゃまぁ計画的な　栽培ん分じゃき勿体ねえは　あたらんじゃろう。一足先に刈られた稲は　コギオチーチ籾は　釜じ煎っち精米するが　ちっと軟ラシイきすぐ　押しちもらゃ歯の悪いシデン　食べ易い。

『焼き米』んできあがりじゃき　他所に行っちょる　シタチニ秋ん香り、味ぅ送っちやると　そりゃもう喜ばれよった。押さんな熱い茶につけち　ちっと軟らしゅナッタラ　塩をチット入れち小昼に　ゆう出されよった。独特ん香り、味が秋ん取り入れん戦陣を受け持つごつ　いよいよ地獄いりになる。

子どもがオトシに入れちょっち　遊びん間にツマンジャ食うそげな風景がイットキ　あっちこっちじ見らるる。

都会じ暮らしよってん　田舎故郷が懐かしい　ソゲナ話が弾む頃ぃ小包が来たら　きまっち『焼米』が　季節ん便りぅ運んじくれよる。貰って食べたなら　そりゃもう『オウツリ』ぅ　送るが銭がお互いにかかってん　そこに人の優しい　心くばりがあると　人間な嬉しいもんじ　田舎じゃ珍しいもんぬ　見はかろうち送る。笑顔がゆききしよるんも　信頼がありゃこす。

今年しゃシケもノウジ　豊作んごたるき　米もうまかろうち褒めらるるとツイツイ　『新米できたき食べよ』　こんだドッシリ　１０キロ袋が配達された。もうお歳暮ん品定めしち　人生双六ぁ今年もグアユウ　回っちくれた。これが人生でんあろうし送れる出来のよさ　貰える相手は大事に　そげん心豊かな　人生はやっぱ　いいもんでんある。

こげな方法じ早めん　試食みたゴタル食べ方も　農家なりゃこすん方法。じゃが保存食にも利用さるる。保存ち言うと　飯の残ったんを　干し挙げち乾燥しちょくと　『干し飯…ホシイイ』じ保存が効く。百姓はテントサマと　雨か頼りん日にち仕事。気候によっちゃ　タマガッタゴツ豊作、反対の凶作、紙一重ん仕事。

そりー夏ん熱いのにでん　草取り汗が背中に滲むと　牛蠅がそきートマッチ　危ね血を吸いかくる。『ぴしゃー』　泥んついた手が　叩いたが　無念逃げられた。トイモん草取り　ショッタラ蟻が　マタクレ入っち来た。『もうフント』　ドロガついた手そこらじゅうが　もう泥まみれ。

こんトイモも切っち　乾燥しちょきゃ　粉にできち『トイモン粉』ん　できあがり。蒸した時に切っち干すと　こりゃ『カンコロ』になるが　どっちも保存食になる。百姓はいつもそげな　こつう気にしち　働くき『百仕事性根』かる　百姓ち言うらしい。そんくれテレコレしきらにゃ　ヤッナ行けんが　楽しみもある。

魚売りが時にゃくるが　チッタいたみかけた頃。でんまぁまぁ食えるるごたるき　いっぺんにドサット　買いこみ塩つけにしち食ぶる時にゃ　塩抜きすりゃケックシャいいもんじゃ。魚うりも米に変えちモロウタリ　昔ん物物交換じゃな。それもイノチキ家にゃ家族が　ソリュウオモウト　『こりゅ子どもに』とヒト握り焼き米ぅ　紙袋に包んだ。

それが又次ん時どま　スルメイカになったり　昆布に化けたり人は　持ちつもたれつん　世の中じゃきなぇ　ゆうシチョキャいい報いんみやげも　貰いだすもん。値切っちコナスト　妙な物ぅつかませらるる。じゃがえ人間　水んじょうじゃ　イノチキャ出来んきなぇ。保存食も使い前がいい　人間も使い前ん　いいしゃヤッパ得するごたるなぁ。

△△△　方言説明　△△△

６１Ｐ　そんままでんいいけんど…そのままでもよいが。しちくるる…してくれますか。ピッタリン…うまい具合に。

６２Ｐ　ソレジ…それで。しちくれたなら…してくれれば。チットン…少しも。オカズ…副菜。はんごう…野外で使う鍋と弁当を兼ねるような便利な食器具。サカシュシチョツテ…元気でいてください。

６３Ｐ　ユウスル…よくする。コン…この。こりゃまぁ…これはこれは。あたらんじゃろう。シデン…人でも。シタチ…人たち。オトシ…ポケット。ソゲナ…そんな。オウツリ…お返しの気持ち。シケ…台風など。ノウジ…無くて。ドットリ…落ち着いて。グアユ……調子よくて。

６４Ｐ　テントサマ…太陽。タマガッタゴツ…びっくりしたように。トマッチ…止まって。シヨッタラ…していたら。マタクレ…股間。フント…ほんと。カンコロ…干し上がると。ヤッチ…やって。チッタ…少しは。ケックシャ…結構。モロタリ…貰ったり。シチョキャ…しておくと。コナスナ…苛めない。イノチキャ…生活は。ヤッバ…やはり。

方言も文章に入ると　前後の言葉で多少解るのでは。独特な言いまわしは難しくても　感情は抜けないので　自然と人の心には伝わるものです。中には大らかな方言　吹き出しそうな言葉もありますが　先人が長い間使った　生活用語ですので　大切に残す責任も私たちには　あると思います。

いま消えると再び出る機会は　なくなるのではと思いたち　既に２８年余りよくもまぁと　ご支援くださる皆様にも　感謝申しながら続編３０号まで　継続してまいりました。ありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

食べ物に関連する　いくつかの　こぼればなしです。昭和２８年頃の資料ですので　今から約６５年前時代の　参考資料です。

お話材料にでも　ご利用なさっては　いかがでしょうか。

★　水産食品　海のクリーム…ウニ。海のきゅうり…ナマコ。
　　海のニワトリ…ビンナガ。海の耳…アワビ。
　　海の悪魔…アンコウ。

※　魚の旬　タイ…６月。イワシ…９，１０月。
　　ブリ…１２ロ１月。サヨリ…２，３月。
　　キス…８，９月。

★　食品異名　シラタキ…糸コンニャク。アキアジ…さけ。
　　うのはな…キラス。むらさき…醤油。
　　ありのみ…ナシ。

※　国の名前　伊勢…エビ。丹波…クリ。大和…スイカ。
　　薩摩…イモ。伊予…ミカン。

★　名物料理　フグ…下関。カキ…広島。イカ…函館。
　　カニ…鳥取。タイ…尾道。

※　飲み物　コーヒー…ブラジル。紅茶…セイロン。
　　ウーロン茶…中国。ブドー酒…フランス。
　　ウエスキー…イギリス。

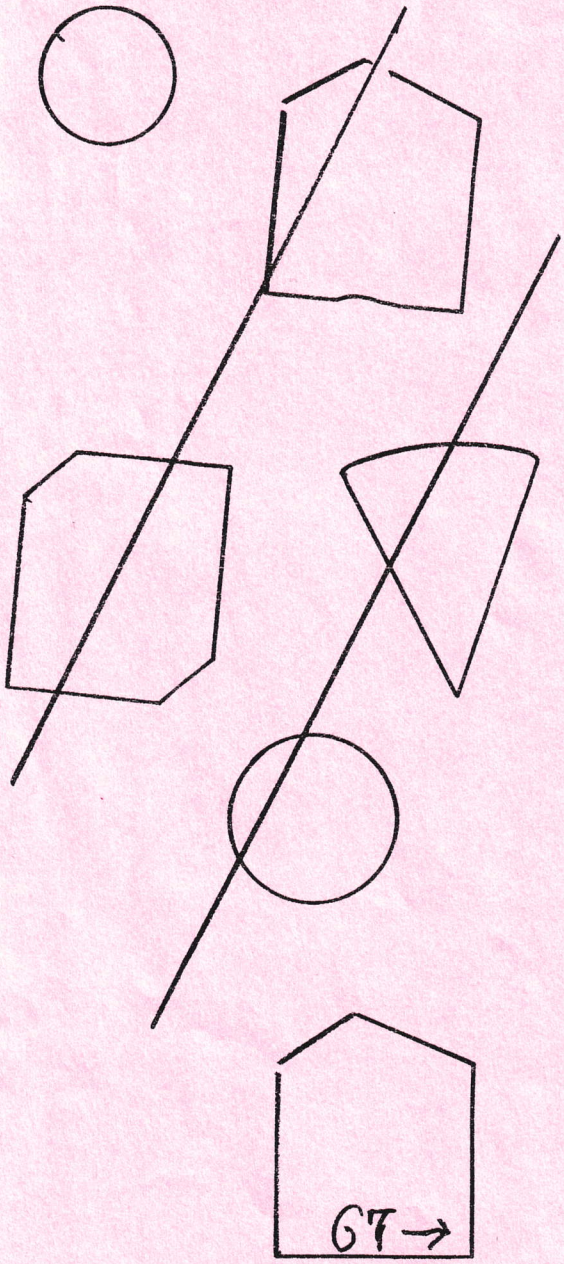
★　果樹別名　田中…ビワ。長十郎…ナシ。伝十郎…モモ。
　　万左衛門…スモモ。

※　菓子種類　ようかん…流し物。きんつば…焼き物。
　　らくがん…打ち物。きゅうひ…練り物。
　　こんぺいとう…掛け物。

★　果樹の旬　イチジク…９月。ザボン…１２月。モモ…７月。
　　アンズ…６月。ネーブル…５月。

今かる６５年ほず前　物の呼びかたなんかん　資料かる選別した一部ですが　時代が変わるとそん　呼び名も変わったりします。参考になれば幸せです。

五月のあなたはこげ友達



★★★　歴史はくり返される　★★★　五輪再会　★★★

２０２０年の世界五輪が　平成２５年に決定して７年　日本は再度の主催会場に決定した。１９６４年開催を　踏み台に経済大国に駆け上がった日本。韓国、中国も同じ道を歩んだ。関係がきしむ中で開催批判や　局面転換を期待する声もあった。その結果は７年間のあり方に　開催の結果に判明するこちなる。

歴史はくり返されその　経過の中で伸びもあり　厳しい試練もあるもの。しかし人間の本質や　お互いの幸せが犠牲になってはならないと思う。東日本震災の後遺症は　まだ解決さなかにありいまだ　苦難にしいられる多くの人たち　それを抜きにして喜ぶのは　心苦しい事でもある。

時が過ぎても苦難は踏み台に　二度と苦難は受けない起こさない　決意があっちこそ　進歩もあり国民の幸せも　約束されもする。この５６年間の　それぞれの苦労が実る時　喜びもひとしおと思われる。野津原にも５６年前の　画期的な事があった。まだ野津原村じゃつたが　青年団が東京でコーラス発表ん　機会があっち勇躍出場の旅立っに　勇気百倍じゃつた。

折角ん機会と団歌を募集　村民の歌詞に曲もついち　会場でのコーラスと団歌も披露できた。青年団の清々しい生き方と　明日に向けた希望、美しい瞳じ見つめた　故郷ん理想、雄々しく歩む青年の真実の誇り、が歌いこまれちょる。５月５日にゃ今市中学じ　午前１０時かる、野津原東部小学校じゃ　１９時かる多くの村人の前じ歌い上げた。東京会場じゃ大分県の　農村青年団が団歌披露する壮挙は当時　話題になったち帰郷した　団員たちゃ笑顔があふれちょつたよう。戦後んやっと安定した頃ん　活動が今も仄かに幻んごつ浮かびあがる。まさに歴史ん輝きでんあろう。

歴史に関わるちゃ　もちっと古い唄もある。こりゃ当時じゃ珍しい　野津原にも２つしかなかった　子供会ん唄じゃが　これも子供自身が　『折角出来たんじゃき　唄も作ろうえ』ちこちなっち　出来た唄じゃつた。昭和２２年じゃき《１９４７年》　もう７３年ぐれ昔になるな。

こん頃ぁ入蔵に『宇曾子供会』と　こん野津原でん中心にあった　『若草子供会』ん話。はじめは隣組ん　子供たち２０人ぐれじゃつたが　話し聞いたらすぐ　皆んなじシュウエになった。そん頃は青年団の　世話役がはじめたが　ひろがっち大人ん　シタチモ協力するごつなった。

青年団ちゅてん　戦後間もねぇ頃じゃき　人数も多いはずじ子供ん多かった頃　それにまぁ引き上げ者ゃ　復員者もおっち青年だけでん　男女８０人くれ　子供会も１００人ぐれ　じゃきそりゃもう　賑やかなこちなった。古い空き家を貸しちくれ　電気も引いてくれた人。甲板『若草子供会館』ち　そん板は近所ん製材所ん　旦那からただじ頂いた。

みんなが支援くれたき　毎週土曜日は『子供会』が　楽しみち集まりよった。そん唄にも故郷じ　元気育つ子供ん将来が子供ん歌詞じゃけんど　なかなかどしちすばらしい。

恵みの光を受けち慈愛ん　子供会に集まる僕私、七瀬の水や宇曾で心を磨き双葉の旗を　かざして元気に進む、導く人たちも子供も悲しみや嬉しい事を　わけあって、緑の丘に花を咲かせることで、歓喜に希望たからかに　すれば平和の鳩も訪れる。それが若草子供会です。と唄われる。

当時の子供会員も　もう７０後半かる８０歳代になっちょる。

日の不自由な生徒さんたちが　下詰ん七瀬川水泳場に　夏の楽しい時間があっち　毎年訪れ美しい水　せせらぎん音　周りん香りに心癒されよつたが　そん時の生徒さんが　肌に心に感じたそれを詩に綴った。そりゅう帰っち　話したところすぐに　先生が何と素晴らしいと　さっそく曲がつけられた。

素朴な詩であってん　心がかよっていれば　美しい唄にもなるもん。そん後に『ふるさとまつり』じ　ほかの唄なんかと一緒に　同じ生徒さんが　唄ってくれた。☞☞☞続きに３番まで。

思いでを抱いち　ここに来ちみると　今年も白ユリが　咲いちょる　香りじ解る。あの日が楽しかった　今は素直になっちと自分に言い聞かせて見る…霧の流るる七瀬川。

幸せとそっと　書いて見る心の中　あの人は　忘れられないが遠くの街なのか　追いかけたいと　ふと　でもシャボン玉んごと消えるだろう　でも　も一度呼んでみたいな……夢の七瀬川。

せせらぎの音が　消えるごと流れの音　あの人と　心の中の仄かな生活　それも沈んで　水の中か。泣いたって　せんない事　叫んでも　ははかない事　せめて　も一度　燃えて見たいな……恋の七瀬川。

１９８８年に　作られた詩　昭和６３年じゃき　もう６３年前になるが　あの詩を書いた人　曲をつけた先生　そのお相手の方は　今はいずくで　幸せ人生だろうか　きっとそう思いたい。

ひと昔前んことじゃが　歴史たぁそうしたもんじ　振り返ってみると懐かしく　仄かな夢やロマンも　浮かびあがるもん。白いユリの花は今年も　きっと咲いち　待っていたかん知れないが。

コイサワ性根入れちセント

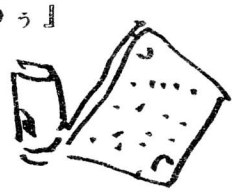
『エ　又コイサモスンノ』『ソウド他んしにゃ負けとねえき』好きちゅてん　程もあるごたるが　あんまりサカロウテン　ムゲノウもある。毎晩のごつシヨッタラ　イツンなかめーかコンダ自分がもう『ノメリクーダ』んか　セツクもんじゃき　婿じょうもチッタ困ったごたる。

じゃけんど　ねんじゅうになると　好きぅ通りこしち　そん味がこんだ　忘れられんごつなる。子どもん時ママゴト遊びにゃそげんこたー　シヨランジャツタキ　こげなこちーなるちゃ　夢にも思わんじゃたが　婿じょうが言うぐれに　なると人が聞くと　かなり激しゅなったんか。

こそこそ話しゅ聞くと　どこん若いしも　人にこす言わんがどやらこげな　時期なると皆んな　はげしゅなるらしい。それも若いしの特権でんあり　また若ぇ今じねぇと　弾まんかん知れんもんじゃき　人にゃ負けとうねぇ　それもあるごたる。『お前かたヨダキュがる　んなら俺が代わり　行ってんいいど』

そげー言わるると　何か負けたごたるもある。『よし解ったほんなコイサも　すると』『ほんと』　若嫁にしちみりゃ　やっぱ嬉しいそれも　婿じょうなら安心も　時間がどげ長ぅなってん　困らんこともいい。早ぅ夕食ん後かたずけ　したあたーもう　いつでん出来るごつ　シコシチョル夫婦。

『やんな早ぇのー』『りゃーそげんこたーねえき』　こんところ腕ぅあげた　所作がもう素人た　思えんごつ早ぅなった。慌てち取り損なうこたー　もうノウナッタ。テサバキがいいき　気持ちゃいいもんじ　笑顔もゆうなった。『手が早ぅなったのぅ』『そげーあるかえー』



『夏春んやたー　こん頃ぁ毎晩しよるごたると』『なにやそりゃ又　どしたんか　いつ時ぁ嫁じゅが嫌いよったに』『それがもう上手になったんじゃき　セツクラシイ』『ソウジャロウのう　顔つきが変わったごたる』『こん前も　通りがけに覗いたところ　座敷じ昼んヒナケ　しよったんど』『なにや　まっ昼まかるや』　それじやり方が　上手になったち評判じゃ。

まっ白い所まじ　見えたりするごつ　ずりくり回っち飛ばすき夏春も　『ダッチシマゥ』ち　チッタあごでーたんじゃねぇ。笑いが渦巻くごたる　そげな場面が話題に　なりでーたもんじゃきの　『もうふんと　見られたりすりゃ　こまるで』『ホタッチョケ　言うやつにゃ言わせちょけ』　婚じょうは　気にゃせんが　肝心の奥ん手は　見られとうねぇ。

『こいさ　押しかけち行くか』『そりゃー迷惑じゃ　あるめーか』『何か用事作っち　行こうや』『じゃのう　ほんなこげなこたーどげーか』　二人じ耳打ちすると　別れたがそりゃま。夜『夏春オルンナ』『オルデ　誰かな』『ワシジャ　常じゃが用事ができたけんど　呼んじくれめーか』『いいで　よーい常ちゃんが　何か用があるらしいど』

『あーい』　ふんとまぁ　コレカルやろうち　広げたばかしに何事か　奥から出て来た夏春　『どしたん　何事な』『うん忙しいんじゃねぇの』『いんにゃ　ちょいとな　用事は何かなえー』『こないだ言いよった　奉仕活動どけする』　『ありゃーやっぱ行かにゃ悪かろうき』『じゃろうなぁ　あらオカンナ』『ウン今練習しよるんじゃ』

『おとっろしゅ　毎晩しよるごたるのぅ』『そげーでんねえで負くるんも　セチナギーきな』『デー分もう手を　あげちょるち評判で』

『ちょいと見せち　もろうてんいい』『いいで』　そんまま奥に上がっち行くと　広げたばかりん　座敷に嫁じょうは　目を見据えち覚えよった。『ありゃーここじシヨンノ』『アラ　常男さん今晩は　いつもお世話になります』『でーぶん手を　あげたごたるな』『あげんことんじょう』

恥ずかしそうに　札を集めると　お茶んシコに　台所に行った。常男は　夏春ん背中ぅ　一つ叩くと　『伸良ぅ　ヤツチョルノウ』『いやはやもう　こんだんカルタ会　にゃ何とかいい点がちもう　シラシンケンジャキ』『相当上手になっちょるち　評判じゃき皆　ビクビクしよるごたる』『りゃーまぁ　誰がそげんこつ言うんかのう』

百人一首は　なかなか　覚えるまじが大変　でん一通りする事じ　いろいろな勉強も　できるもんじゃき　農家でん余暇にする意義は　あるごたる。青年団から　やっちょつた会が　結婚したしたちも　参加できるち聞くと　やつぱ前に経験しちょるき　何か若さが躍動するごたる。

嫁さんの噂が　改めち解ったもんじ　下手な誤解はシャボン玉んごつ　消えたが変な妄想が　本当ならと口水垂らす　そげな花も散っちしもうた　真夏ん夢物語。でんロマンがあったり　夢があるなぁ若さがあり　進歩が約束された　故郷かん知れん。常男も入ったこん夜の　カルタはみごと　若い嫁さんが　上席になっんも　日ごろん成果でんあろう。

『天の原　ふりさけ　見れば　春日なる　三笠の　山に　出でし　月かも』

三助共路2

五助の街道物語

肥後街道物語『工藤三助の執念』　2

湛水に溢れるように　井路をオシアイ　ヘシアイシチ　流れ出た水は直入ん奥ん　谷かるはるはると　ここまじヤッチ来ちくれた。『フント　スマンナェ』　心ん中じゃ感謝し　中にゃ涙顔じ両手合わせち　拝むしもあった。そんクレー嬉しさも　喜びももう天に上るゴタル　胸中でんあった。

△△△　岩をくぐっち　ここまじ来たと
　　顔を覗かす　いじらしさ
　　三助まつりの　揃うた　揃うた
　　稲の出穂まじ　よう揃うた　　△△△

三助踊りん一説じゃが　幼い子どもも含め　老若男女が　疲れ忘れち踊りん輪を作る　そん気持ちぁ　考えられんごたる　水がここまじ　それも大事ん流れ　夢じゃなかろう　夢なら正夢じあっちほしい。親が祖父母が　長年念じた　田んぼに水が　それもハリコイッパイ　流れ着いたんじゃき。

工藤三助が　生まれ育った故郷　野津原郷ん谷村に　苦労する水ぅ引いた　オオタツ、カギオノ、ヒサゴ　３水路ん工事に　執念燃やしち７０余年。小柄な姿体に　見かけより多少大きな頭。聡明で人の苦労が　見て見ぬふり出来ぬ　思考力の繊細さが　こん事業を『やらせた、やり遂げた』　成果になったよう。

はじめの恵まれた　条件から厳しい　中間の難工事や　後半の清貧糊口も欠くが　それでん初志一貫。ヒサゴ水路の途中まじ采配を続けたが　最終段階じゃ　曾孫ん弁助が　多くん支援者と一致団結しち　みごと３水路完成ん　喜びが満喫出来たよう　心に決めち　夢にも描いた　故郷に水を引く　そん理想論は　今も輝く壮挙としち　長ぅ語り草になっちょる。

工藤三助さんがん　水路開発に執念ぬ　燃やした『郷土ん人』ん　水路に関わったこつー　チョコット　ならべちみろうなえ。

寛永元年《１６６１》に　当時ん　野津原郷ん谷村に　生まれちょる。庄屋ん工藤理右衛門の家　コンメー頃かる　父親が村ん見回りに　行く時にゃいつも　ネダッチ　ついて行きよった。そんうち　１３歳になった　ある日んことじゃつた。こん日も父と大分川を渡っち　対岸の『いちぎ』に　出かけた。

三助がそん時に　目をツヨー引き付けたんが　そこに初瀬井路ん　水ん取入口じゃつた。初瀬井路は　そこかる大分川ん　水を取り入れち　ずーと下流ん　加来やら　南大分やらん　田んぼに水を送っち使う　マコチ考えた　井路じゃつた。ジャモンジ　よそん川ん水じ　自分方ん田が　水じ潤いよった。

三助は次ん日かる　こん取入口に　じーと座りクージ　水路に流れこむ　水ん様子を　熱心に見つむる　三助ん姿がソリャモウ　人目につくゴツナッタ。『ヨイ　アリャどこん子か　今日も又アッキ　座りくうじょるのぅ』『うん　アリャー谷村ん　庄屋さんとこん　三助さんじゃ。面白い子じ　今日じモウ　３日もアッキー　座っちょるんで』

水んじょう見よる　とにかく　コンメー時かる　チット変わっちょるらしい』　人びとは３日も　同じ所に座って　水をみつめチョルヌ　不思議そうに　眺めちゃ　通っちゃ行きました。三助もコン頃かる胸ん中に　『よし　私ん住んじょる　野津原郷にも　全体に　なんとか　こげなふうな　水路を通しち　もっとガイト水を　引き　お米を取れる村に　しよう』と　大きな夢もフクランジョツタ。

故郷を愛する　気持ちと　皆んながモット　幸せになっち　はしいち　思うだんじゃろうなぁ。

巡り合わせの宿命

執念を燃やし始めた　そん頃じゃつた。こん三助ん夢に　励まし応援しちクルルしが　あった。こん周辺の総庄屋と　しち野津原郷全体ん　世話をしちょつた　小野治兵衛ち言う人じ　こん治兵衛も三助と　オナジゴツ　野津原郷に　水引くごつ考えちょつた。二人ぁ年が　ウント違うんじゃが　ソゲナコターどげでんいい。

水路づくりにチーチ　話いあいしました。そんうちに話が出来ちのちに　大分川ん　上んほうん上流ん　深え谷間やら　庄内ん山ん中なんかも　水ん取入口ぅミツケチ　捜し求め歩きまわった。そげな姿が皆んなん　目にゆうツキヨッタ。三助ん夢はいよいよ　本物になっち行きそうじゃつた。

総庄屋ん小野治兵衛ん　力強い後押しじ　張り切っちこん　大事業に取り組んだ　三助じゃつが　そりゃもう水路造ん　仕事は生やさしい　もんじゃなかった。じゃがここまじ来た　三助ん気持ちゃもう　後にゃへモドレンし　今までん苦労は　水にゃされんし　そげな水があるんなら　田の中にいれてーもんじゃ。

粉骨砕身しちでん　取り組むこちー　もう巡り会わせた　宿命が双肩にのしかかっちょる。そげな思いが頭を　よぎり水んそん音もいつも耳に聞こえた　明け暮れじゃつた。始めんオオタツ井路ん工事ぅ思いたっち　２５年じえーと完成。そりゅう思うと　トテンソリャモウ　井路づくりんオオゴター　想像以上ん事じゃつた。

小野治兵衛さんがん　後押しもあっち　一つん夢は苦労したもんの　完成はしち　元禄元年《１６８８》　２８歳じ始めち元禄１２年《１６９９》　３９歳ん時に完成。そん報奨も１０石加増された。多くん人たちん支援　協力もあっての事じゃつた。が水取り入れ口ん　捜し出しが厳しい　事も思い知らされた。

水ん取り入れ口ぅ　見つけでーた事じ　隣ん藩かるん　工事をしてんいいち言う　許しも受けることが出来た。大龍やら五箇瀬ん高台にある　村まじ水ぅ通すにゃ　水ン取入口ゃ　まっと高ぅナカラニャナラン。三助ン山歩きは　大分川ん本流はもとより支流んどげなコンメー　川でん調べち　歩きまわった。

こげーしち三助ん　水口捜ししゃもう　捜し始めち１２年もなっちょつた。じゃけんど　執念たぁオジイモン　トウトウ見つけたで。そかー熊群山のふもと　野畑村と言う　所じゃつた。

じゃが悲憤な出来事もあった。元禄１４年にゃ　愛妻の奥さん妙証さんが　悲しくも先たたれた。この愛妻とん結婚によっち府内藩領地ん武宮村を　自由に訪れる事が　可能になっち　工事関係進捗にも大けな　役割も果たしち　くれちょつたよう。そんことによっち　熊群山麓渓谷なんかも　至便にになっち　水源地選定まじも　予想通りになったごたる。

奥様かる　ある日『あなたは用水を引くために　私と結婚したのじゃないでしょうね』　一瞬ひんやりしたもんの　そこは沈着に　『いえいえ　決してそんなことは　ありません。そんなご縁があっても　いいじゃないか』　元禄１６年《１７０３》総庄屋を　譲って別の家に隠宅。カギオノ井路普請奉行になり　４３歳本格的な　工事に没頭して　執念を貫いた。

完成したんが寛永４年　４７歳の時だったよう。オオタツ井路水源地発見から　実に２０年間　初志貫通しち　水が野津原郷の大半にもひろがったが　まだまだ水の　たりないそげな　地域は膨大でもあった。然し野津原村の　高い地域に水が来た　現実の通水に歓喜した　当時の農民は水の恩人として　いつまでんそん感激は　忘れられないのでは。水を湛えると書く　湛水地区にゃ今年も　実りを約束する水が　豊かに自然に流れよるんで。

カギオノ水路工事中に　愛妻を亡くした三助だが　この愛妻の妙証の心の支援は大きかった。また義父の辺春重継の　藩の壁を越えた支援は相当に　味方となっち成功を早ぅしたごたる。執念がありゃ　味方も寄っち来る。三助ん人となりも　随所にそりゅ感触するこつー思うと　人間の真心は共通した　ソゲン気もするが。

イッコンイッコン　頷いち聞きよった　一助さんも感心の連続に　目頭も熱うなっち　『ふんとなぇ　ゆうハリクウダ　もんじゃなぁ』ち　思わん手ぬぐいじ　涙おさえよった。『五助さん　馬子歌ぅ一つ聞かせなぁ　もう嬉しゅうなったで』『ほーなオオキニ　ほんな一ひと節　聞いちくるるな』

§妻に苦労を　かけたまま　別れ
　残る　仕事ん　無事たのむ　ハ　七瀬のせせらぎ
　蝶々も舞うて　ホイホイホイ　§

『オオキニ　五助さん　無理言うち　済まんじゃつたなぇ』『インゲナコト　嬉しいわな　自分がんのごたる　喜びじゃな』　五助ももう　涙声になっち　山肌にそん　すばらしい馬子歌が　イツマデン　余韻残しちょる。天国じ妙証さんも　やっぱ喜びよるかんしれんなぁ。

『あんな　こげんことも　アッタンデ』　ダマシ言われたもんじ五助さんも　トチメンポふったが　そかー毎日ん　アキナイン　間に唄うき　ソゲマジ　タマガリモ　センジャツタガ　それも時と場合んこと。ちっとシメッポーなったき　おまけを一曲　つけ加えた。こりゃもう　オハコでんあるが。

§　アオょ　いさめよ宿場はそこじゃ　あれが街道の石だたみ
　ハ　七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラ　ホイホイホイ　§
　山肌に　ヤマビキになっち　ながれよった。

山ん中を天秤ぬ抱えち　ボソかきわけちゃ進みよったら　突然『あいた　ヤラレタ』ち　大声が聞こえた。おおごつち　思うたがここじ知らんふりゃ　出来んが　見つかると大事ちにもなる。じゃが『命かかわるかん』　つーじ側まじ行くと　『どけしたんな』『いんげ　蜂に刺されたごたる　ナニンカニン疼く』

咄嗟に印籠かる傷薬りゅ　セワシュ塗ると　チョイトしよったら　痛みが引いたごたる。『ありゃーすまんなぁ　おおきに助かった』『そりゃーよかった』　顔見合わせた二人　ドツチもタマガッタ顔　『あー知らんしじゃなぇ』『えぇそうじゃったなー』『ほんな　気をつけなりーえ』『おおきに』

あ　そうじゃ『帰り暇なら　ヨッチヨコイよ　こん下ん車に』そげー言うと　もう三助ち　わかっちょつたようじゃつた。がここじ話すといろいろ　あとがやえこしいち　思うたんかサスガ　クロウジンな心得たもん。三助も深深と頭さげ　何事もなかったように　さっさとよそに　小走りに向いた。

夕暮れ時に　遠慮すりゃ悪いち　水車にたちよった。『ごめんください』　聞き慣れた声に　奥からおやじが　出てくると顔を確かめち　『今日わエロー世話にななったなぁ』『お加減はどうで』『おかげじ　あん薬がユウ効いたごたる』　傷口をハグッチミセタ。

『オヤクメご苦労さま　解っちょるき　聞かないで　何か役に立つこちなりゃ　遠慮のう言うちをくれ』　そこまじ言うと頭さげた。三助ももう　余分は言わないじ　又お寄りするかん』と頭下げたが　二人ん心ん絆は　結ばれたごたる。何回か立ち寄り　お茶の接待もうけ　完成後にゃ　晴れて名乗ったごたる。『偉ぇもんなちがうなぁ』『人間こげーありてーな』　水路と水車やっぱ　ご縁があったんかんなぁ。

大分県な当時は　小藩分立じゃつたち　聞いたがこりゃー　どげな意味ん事な　まさか料理にに　使わるるような　意味じゃなかろうなぁ。五助さんも歯が飛び出る　ぐれーおかしかったがえーと　堪えち詳しい話しゅ　一助さんに話した。昔は藩ち言う殿様ん　領地がいくつもあっち　大分県の場合は　特に多かったんで。

じゃモンジ　隣同志でん仲がよかったり　悪い例もあっち　何ちゅうてん自分方は　何でんある　豊かな領地にしたかった。じゃき『あり余るもんでん』　高く売っち豊かになりてぇ　人間の本能でんあろうなぁ。三助が領地に　水を引いち米を作るんも　そげな理屈が　あったもんじゃきな。

それじほしい場所に　水を引いち来るにゃ　そこよりゃ高い場所からじねぇと　来んもんじゃき　やっかいにもナリヨッタ。三助が構想ん　湛水まじ水を　連れちくるに　相当高い場所にダムを作っち　そんたまった水を　毎日平均に流す　それが大事じゃつたんで。

料理に使えるまでん　前の前の話になるき　お代りどころじゃねえこちなるな。『そうか　水は上向きにゃ　流れんきなぇ』『ゆう知っちょるなぁ　さすが旅しちょるき　アタマガいいナ』『チャアリャ　五助さんにゃ　かなわんな』『いんげ　わしどころか　今日は三助さんの話じゃき』『じゃつたな　三助さんご免んな』

そこじ隣ん藩にお願いする　こちなるんじゃが　それまじぃどこかる　どき一流しながら　湛水まじ連れちくるか　そりゅう調ぶる必要が　あったんじゃこと。あん蜂に刺された　あん時もちょこっと調べよった。『あんしゃそんあたー　どげなった』『すぐ元気なっちな　行くたんび加勢しちくれ　助かったんと』

野津原手永は高い場所が多いき　畑所じもしイイ水源がありゃ水ぅ　うまく利用した灌漑面積も　広めてー。それにゃ水がガイト取るる源が　ほしいこちなる。野津原ん北西部かる　東向きに流れよる湯原川《のちん芹川》が　いい場所んごたる。となりゃ幕府領地、領地を通るこちなる。岡

これがヒョイト出来りゃ　野津原手永ん来たん　大部分と谷村手永にも使える。じゃき三助は　幕府領ゃ岡領に　入りこんじ測量しながら　奥地にだんだん　入っち行くこちなった。天秤棒に測量用ん目盛り　行商人に変装　苦労承知ん　探索測量は　まさに血の滲む思いの　連続でんあった。

元禄１４年《１７０１》執念の気持ちは　ついに湯原川に到着し　ここかる取り入れすりゃ　湛水に水が可能が　確認も出来た早速肥後藩に　幕府領と岡藩に水路交渉を　願い出た。そしてこん工事が　大龍水路石以上に　難関である覚悟も決めちょつた。そんために身軽になる　そげな必要もあっち　谷村手永総庄屋を　倅治郎左衛門に譲り　自身は工事に専念したいと願い出た。

三助が４３歳になった　元禄１６年正月　幕領高松役所と岡藩から　そけぞけ領内水路通過が　認証された。１７０３年カギオノ井路の　普請奉行にもなっち　手当て切米１０石３人扶持が与えられた。勿論水路通過の岡藩　湯原組、梨原組、今市組、の３人の大庄屋と　肥後藩野津原、谷村、の２人との間に工事の諸問題協議、仮証文、現場での仮調印、本調印もされた。さらに、幕領高松代官、肥後藩役人との　同様調印でど工事着工となったごたるで。

『やれやれ　三助さんのご苦労な　大事じゃつたろうな』『まぁそれになぁ　それかる先が　それこす大事じゃつたごたる』『でん　ここまじこれたんも　三助さんの人徳かん　知れんな』

７３Ｐ　フント…本当に。スマンナエ…すみませんね。クレー…暗い。ゴタル…ようです。ハリコイッパイ…精いっぱい。やらせた…させた。なっちょる…なっています。

７４Ｐ　こつぅ…ことを。ちょる…ている。コンメー…小さい。ネダッチ…甘えて。ツヨウ…強く。ずーっと…はるか。ジャモンジ…ですから。よった…いました。クージ…こんで。ソリャモゥ…それはそれは。ゴツナッタ…そのようになって。ヨイ…皆さん。アリャ…あれは。アッキ…あそこに。うん…はい。アリャー…あれは。チョルヌ…しているの。ガイト…多く。

７５Ｐ　クルル…もらえる。オナジゴツ…同じように。ソゲナコター…そんなことは。チーチ…ついて。ツキヨッタ…気づいたよう。じゃが…ですが。ヘモドレン…かえってはこれない。トテンソリャモウ…とてもそれは。

７６Ｐ　まっと…もっと。ナカラニャナラン…ないといけない。こげーしち…こんなにして。じゃけんど…ですが。オジイモン…恐ろしいもので。トウトウ…ついに。じゃが…ですが。くれちょつたよう…暗くなったよえうで。いつまでん…いつまでも。

７７Ｐ　イッコンイッコン…ひとつひとつ。ハリクウダニ…頑張ったのに。ほうな…そうですか。オーキニ…ありがとう。インゲンコツ…とんでもないことで。ダマシ…急に。トチメンボウ…慌ててしまって。ソゲマジタマガリモ…そんなには驚かないが。センジャツタガ…しなかったのですが。シメッポー…急に静かに。

７８Ｐ　ボソ…ヤブ。ありゃやられた…しまった。どけしたんか…どうしたのです。ナニンカニン…トニカクマァ。ドッチも…お互いに。ヨッチヨコイヨ…立ち寄ってお休み。エロー…大変。ハグッテ…あけてみて。

『やる以上はトコトンやらにゃ』

始めん夢にゃ厳しいな　計算に入れちょつたが　さぁ取り組むとなりゃ　そりゃもう難問あり　経費がかかる事も　承知はしちょたき　いよいよになった時にゃ　分家しち立てた　屋敷も家も売っちでん貫かにゃ　『ほらみたか』にも　なりかねん。それより本当に水に困る　地域ん人たちゃもう　出来る　水が流れち来る　ほしち米が出来た　そこまじ　当てにもしよったごたる。

波乱万丈になったが　『私も男じゃ　やり遂げにゃ　笑いもんになる　第一こげな　あ荒法師ん　願いを気持ちゆう　許しちももくれた　肥後や闘ん殿様にも　あい済まないこちなる。切腹ぐれじゃ　済まんどころが　わが家ん名折れにもなる。そ　言えば由緒ある家計じゃつたし　先祖は武勲もあった。

そげなことが　頭ん中を飛び回り　ここまじ何も言わんじ　心寄せちくれたしたち。信じし家が犠牲でん　最後までついち行くそげな　覚悟んしたちゅ見るにつけち　ここじ敵に後る　見せちゃち　覚悟もあらとぅなった。ち言うんも　世の中がこん頃ぁ発展豪華な時代に　なったからでんあった。

西洋文化も入っち　生活程度が非常に　ゆうなっちょる。ちゅてん農家がそりー　伴うたんじゃねぇんで。百姓はやっしぱ　どげー言うてん　士農工商ち言うてんな　２番どころが５番目かん知れん。武士はもう戦はのうでん　わりかた裕福に　工業んしも技術者じゃき　日銭がけっこゆう回る。

百姓は盆と節期に　つけ借りん決済。じねぇと米ぅ売っちこす銭も　入るけんど　小作んしどまぁ　小作料がケックシャ　イルき残りゃ少ねぇ　嫁ごに繻子ん帯どころか　イマキん一枚も　とてん厳しい　財布ん中じゃつた。ヘコはこん次にしゅう。

古言學會ひろば
83→

ひ　ヒトハズミ……咄嗟の弾みで、あっと思う間の出来事。
ヒトンコタ……人の事はともかく自分の、自分は世話ないか。
ヒトコシ…一休みして、一休みには大きな意味が、能率効果。
ヒドリャ……少し下がって、下がることで、日程を決めて。
ヒトドワ……人たちは、あの人たちの、人の人たちの心理は。
ヒトミズ…人に合わせるのが恥ずかしい、人との交わり苦手。
ヒドガル……辛いのが嫌いだが、態度で示せない苦労人。
ヒトハジキ……いっぺん弾いて飛ばせる、一回叫べば気軽に。
ヒナテデレ……日の当たる場所に出たら、表舞台に出たら。
ヒナテ……日の当たる場所、日陰では思い通り出来ぬ。

ヒナアラリュ…おひな様に供える餅アラレ、子供向けの小餅。
ヒナビチョル…弱々しくなっている、素朴な状態が絵になる。
ヒナモチ…おひな様に供える菱形の切餅、ひな節句の供え物。
ヒナタン……日の当たる場所に、干し物がよく乾く場所。
ヒナチョコ…小さな可愛いい、見ただけでも笑顔になる形態。
ヒナタミズ…溜まったまで温かくなった水、日のあたる溜水。
ヒナテホセ…日当たりに干せばすぐ乾く、乾燥が大事だから。
ヒナタクセ…日に干しすぎて匂いが、日干しにゃ独特な匂い。
ヒニアチ……日光にあてると完全乾燥、平均に乾くので。
ヒニャサンド…一日三度は、几帳面な習わし、繰り返し習慣。

ヒニチクスリ……毎日の事だから、繰り返しの習慣作業で。
ヒニンモニンゲン…差別されても同じ人間同志、差別は厳禁。
ヒニアタル……日光に当たれば健康、生育には太陽の恵みが。
ビニャツト……弱ったような格好、弱気には病気もつきもの。
ヒニヒニ……くり返すうちに、次つぎに変わって行く。
ヒニャヨエー…太陽には弱い植物、影がよく育つ、適合性を。
ヒニアヤス…日のひどい時に脱穀する、よく乾いて脱穀する。
ヒニギル……真剣に握って、急に握り占める、握れば勝ちに。
ヒニヤケチ……日焼けして黒くなる、日焼けして痛むが。

ひ　ヒニアタリホウダイ……太陽がよく当たって、干し物が乾く。
ヒニサンカイ……毎日三回きまりよく、定期的な習わし。
ヒヌル…するりと抜けて、要領よくすり抜けた、逃げる早さ。
ヒヌグル……抜けるには誰よりも早い、忍者並みの逃げ腰。
ヒネル…つまんで痛める、結構な痛みも感じるもの。つねる。
ヒネラニャ……つまんで嫌われ場所を痛める、瞬間の痛さ。
ヒネチョリャ…いじわるな性格が目立つ、嫌われ役が似合う。
ヒネクレ……根性悪い性格が嫌われる、人に融合しない性格。
ヒネモンニャ……古いものには用心を、安物買いは損が。
ヒネツケチャレ……ごまかしは悪徳、油断ならぬ安物買い。

ヒネクレチ……根性が曲がっていて、人並みはずれは嫌われ。
ヒネタンカ……心変わりしたのか、信じられないような。
ヒネモン……粗悪商品には用心して、安物には危険性が。
ヒノタネ…話題には種があるから、火のない所にゃ煙りなし。
ヒノツジャ……正午頃は一番暑い、陽の強い時間には。
ヒノアルウチ……陽のある間は早く、日暮れにならぬうちに。
ヒノカキ…太陽のある間に、なるべく早く、遅くならぬよう。
ヒノナゲー……日中が長いので、一番長いのは夏至前後。
ヒノトコリャ……火がある所には、生活基盤があり、健康も。
ヒノゴツ……興奮して起こり浸透、起こり長けるのも。

ヒバチン…火鉢の側は和むもの、家族団らんの場所にしたい。
ヒバチュセセクル…火鉢の中をかき回す、人の癖は多いもの。
ヒバリュミタ……雲雀をみたから、雲雀の声聞いて。
ヒバンニャ……休みの時には遊びに、ゆっくり休み体調管理。
ヒバシロ……火災では、厄よけ焼き行事が、火には用心を。
ヒバンデン…休みの日でも用事が多い、用事があるはよい事。
ヒビワレチ……ひびが入った田んぼ、水不足は被害が大きい。
ヒビユー……ひびがきれて手足が痛い、冬の皮膚の手入れを。
ビビンコ……肩車に乗せて、幼児の楽しい祖父の子守。

41353

ひ　ビビクシチ……肩車して遊んで、肩車が眺めいい。
ヒブセ……火災から守る願い掛けた仏様、火災予防の祭り。
ヒブリ…柱松に束ねた火をふって投げあげ、柱松に火を上げ。
ヒブクリュ……やけどして水泡が出来た、やけどの後の水泡。
ヒブリジ……火をふって厄払いの行事、火で厄よけする祭り。
ヒブクロ…やけどによって出来る水泡、火傷したあとの水泡。
ヒベリガ…日が立つにつれ減って行く、乾燥すると量が減る。
ヒボデン……紐でも、紐でもよいので、紐ならどれでも。
ヒボシスンナ……欠食するのは食い止めて、何でも食べて。
ヒボンサキ……紐の先に、紐の先だけに使い前も。

ヒマチャ…暇などないけが、暇は使い様で、時間は生み出す。
ヒマシンノ……日を増すごとに大きくなる、日がすぎれば。
ヒマーミチ……余暇になんとか、余暇利用で使い方を。
ヒマラメ…老齢で日毎に性器も目も衰える、自然現象摂理で。
ヒマントキ……余暇の利用で、時間があいたら、ついでに。
ヒマナリャ……暇ができたなら、暇な時間に出来たら。
ヒマヒマニ……余暇を利用した仕事に、余暇を生かす生活。
ヒマツナギ……暇な時間の有効利用で、生きた時間の使い方。
ヒミンヅラ……恥ずかしがりやな性格、表面には苦手。
ヒミュウミチ……暇を見て加勢頼む、暇ん時でいいので。

ヒムシル……無理に引き取って、乱暴にむしり取る。
ヒムキャ……太陽に向いた家は、日当たりのよい田んぼは。
ヒムケ……南向きの場所、太陽に向いた場所の田や畑。
ヒムヤル……暇をやりますから、暇をあげましょう。
ヒメーナッチ…暇になったので暫く休養、余暇になったので。
ヒメモロウチ……暇をもらって仕事やめる、仕事を退職した。
ヒメガウマレタ……女の子どもが生まれた、女子が生誕。
ヒモトヒチネン……火災の元は７年頭上がらず、責任重大。
ヒモミチ……暇ができたらお願い、余暇に頼みたいので。

ひ　ヒモジナイチドキ……腹がすいたのは一時、少し辛抱して。
ヒモジュデン…空腹でも我慢して、少しの辛抱も次が美味い。
ヒモツクル……暇は作り出すもの、工面次第で時間は出来る。
ヒモジイゴク……紐を利用した農耕機械、紐が重要な役割を。
ヒモトル……暇を貰って退職する、暫く休憩して。
ヒモクンナ……紐をください、休みをください、退職させて。
ヒモジー……空腹で我慢が出来ない、お腹が空いたので何か。
ヒモデンイイ……紐でもよいので間に合わせに、紐が役立つ。
ヒモミテン……暇ができても、余暇があっても役立つか。
ヒモタクネチ……紐をまとめて整理しておく、咄嗟に役立つ。

ヒーチョケ…弾いてください、挽いて食べましょう、引くか。
ビーロン……子どもの遊び道具がらす玉、美しい色彩が。
ヒーチ……挽いて、弾いて、引いて、曳いて、退くて休職。
ヒーチョル……引いているよう、弾いてもらっています。
ヒーチャラン……弾いてあげない、挽いてあげましょう。
ヒーチョラレン……弾いていられない、挽く時間がないので。
ヒータンカ……引いたのですか、挽きましたから。
ヒーカグロ……ご弊をかざして舞う神楽、神楽にはつきもの。
ヒーチョキャ……弾いておけば、挽いてほぞんすれば。
ヒーテン……退いても応援はします、引くのはよいが。

ヒヤットスル…びっくりする、驚いて立ち止まる、急な事で。
ヒヤイ……利息の事、借りた金の利息、借りたなら利息は。
ヒヤミズ……冷たい水が入って困る田、余分な事を言って。
ビヤウレタド……びやが熟したので、びやが食べ頃に。
ヒヤミダワリー……冷たい水は発育が悪い、適温適量が原則。
ヒヤコイ……冷たくて美味しいよ、夏にはもってこいの味。
ビヤツウウイー……山芋は古い弦の頭を植える、元が大事。
ヒヤイモッチク……利息を払いに行く、催促されぬうちに。
ヒヤヒヤ……危ないから用心を、叱られない内に。

41480

野津原方言単語も　ここまじじ４１４８０語になったんで。そん中にゃ方言ジャネエケンド　仲間に入ったもんやら　使うと悪い卑下する言葉　差別な用語もアルチ思うが　方言集ん性質上コラエテナ。今集めち残さんとモウ　ノウナッチ消えちシマウ　そげなこつー心配しち　始めち２８年あまり　続編№３０号です。

ご愛読して頂いています　高齢者の皆様　今朝もお元気にお目覚めと存じます。健康確認に洗面所でも結構　鏡に向かって確認チエック　手軽な自分での確認です。はっきり言えますか　一つ話しかけてください。『今日はいい天気、こころもはればれ、ラリルレロ、パピプペポ。両手を前に出して…落ちないよ。顔のヨガミハ…ないですか。言葉は素直に　出ますか…じゃ　お元気な証拠です』　今日もお元気で。毎日確認される　自分の健康管理は　自分で確認して　守ってあげてください。健康はまず幸せの原点です。それでは方言単語に　入ります。

ひ　ビヤハナムギ……ビヤの花が多いと麦が豊作、体験の例え。
ヒヤット……一瞬気分が恐怖に、思わぬ事態に吃驚して。
ヒヤック……しゃつくり、急に止まらない難渋。
ヒヤケ…陽の当たりすぎに暑さ負けして、日光に焼け痛み。
ヒユットコ……滑稽な姿形に、道化者に成り済ます特技。
ビユット…急に動く動作、予期せずに動く、瞬時の出来事。
ヒユル……冷える、冷えこみ、急に涼しくなって。
ヒユーヤル…日雇い賃金を、一日分の賃金を、日当支払い。
ヒユトリ……一日賃金の作業する人、余暇利用の作業人。
ヒユナラ……日雇い賃金なら、日雇いなら加勢出来る。

ヒユータン……瓢箪、滑稽でのんびり屋の性格。
ヒユトリン……日雇い稼ぎの、臨時に働く便利屋さんたち。
ヒユラヒユラ……のらりくらりして、呑気な性格の人。
ヒユースラ……捕まえ所のない、調子のよいはなしだが。

ひ　ヒヨンヒヨングリ…くぬぎ、なら、などの実、子どもの遊具。
ヒヨリガユウジ……天気がよくて、晴れているので、晴天。
ヒヨゥロウ……食べ物、食料、牛馬の資料など生きる為の。
ヒョイトスリャ……もしかしたら、突然に変わるかも。
ヒヨット……もしかして、急に変わることも、変更に。
ヒョロリ…急に現れて、突然出てきて吃驚、危ふく転びそう。
ヒヨケ……瓦葺きの屋根の呼びかた、太陽を遮る、日射防止。
ヒョロヒョロ……不安定な歩き方、酩酊したあしどり。
ヒヨセン……乾くのに間に合わず、時間が少なく乾かずに。
ヒョウカンベー……滑稽か場持ちな性格、人を愉快にさせる。

ヒョクット……急にいわれ、急な用事が、火急な出来事に。
ヒョカット……咄嗟にいわれて、突然な連絡で、思い付きな。
ヒョーシャネェ……簡単に出来た、いとも手安い仕上がり。
ヒョーグル……愉快に話しかける、滑稽で飽かせない。
ヒョウロクダマ……滑稽であり人を楽しく、気が回らぬ面も。
ヒョイトメ…ちょこっと見たのでは、咄嗟の場作りに、臨機。
ヒョクラス……人を笑わせ楽しませる、時には嫌気もあるが。
ヒョイヒョイ……気軽に応じる呑気者、芯は強いが人柄が。
ヒョイトンマ……少しの時間に、咄嗟の仕切りに間に合う。
ヒョコント…咄嗟に場つなぎが上手、人飽かせしない気使い。

ヒョロ……うっかりして大丈夫、突然笑い神、くせ者助け船。
ヒワケーノ……まだ若い青二歳、熟さない若さ。
ヒワレタンカ…乾燥で割れた地面、乾燥が酷くて。
ヒワレチ……割れた地面、根が切れるかも。
ビワンツウ……山芋の弦につく芋、山芋の子ども。
ヒワレタ……陽がひどくて地割れ、水不足。
ピントハツル…しっかり削って、正確に割れる。難しい削り。
ヒンジャワカラン……品だけじゃ性格までは、見かけより心。
ヒンキ……馬の発情期間、馬の種付けが回ってくる。

41581

41581

ひ　ヒンナワリー……品位が悪いが、見かけが悪くて、下品な。
ビンタン……頬、ほっぺ、面構え、可愛いい頬の童女。
ヒンノイイ……品位が伺える、上品な着こなし、静かな容姿。
ビンボユスリ……小刻みにゆする、無意識にゆする。
ヒンヌウダンカ……突然飲みこんで、無意識の間に飲みこむ。
ヒンムク……見開いて、大きく見ひらいて、大きな目で見る。
ヒンシャ……貧乏な生活、貧しい生活に甘んじる、心は豊か。
ヒンヒンユウナ……艶かしい声、欲求不満なのか、怪しげな。
ヒンノトウゲ…貧乏の絶頂に、これ以上はないような。清貧。
ヒラクトナル……誤りこれイジョウナし、どうでも勝手に。

ビラビラ……ひらめかして飛ぶ、風に吹き流されてそよぐ。
ヒラテー……平らな形状、ひらたい場所、広い平原場所。
ヒラクトウ……もうお詫びのしようもない、平身低頭。
ビラットトベ……閃かして飛んだ、鮮やかに宙に飛んだ。
ヒラケチ……開いて、広くあけたありさま、広げて受入れ。
ヒラヒラスル……さやゆれるような風情、蝶が鮮やかに舞う。
ビラビラツウジ……激しく飛んで行く、元気よく飛んで。
ヒラベラトナル……たいらになって、平謝りの姿勢になって。
ヒラクトナル……なにも申しませんと謝る、これ以上は。
ヒラクテ……平らな形態、ひらたい見事な物、見事な平面。

ビラリト……あっさり飛んで、鮮やかな行動が目につく。
ヒリナガス……たれ流した醜態、落とした痴呆ぎみな患者。
ヒリサゲーチ……失禁状態の気の毒な、哀れさが伺えて。
ヒリヒリ……酷い痛みで疼く状態、傷以上の心痛みに悩む。
ヒリマワス……あたり構わず無作法する、異常な失禁状態。
ヒリョフッチ……肥料を作物に施す、追肥にやれば効果が。
ビリデンイイ……終わりに走ってもよい最後まで、初志貫徹。
ヒリョヤル……肥料を施して、追肥すれば効果がある。
ヒリ……一番びりでも最後まで頑張る、最後まで貫くことが。

ひ　ヒリソコナウ…する予定が出来なくて、用便だけはきちんと。
ヒリヒリスル……傷口の痛みがひどい、火傷のあとが痛む。
ヒリカクル……用便を飛ばして物にかける、行儀が悪いが。
ビリビリチ…小気味な音に好奇心あほる、紙を裂く音の妙味。
ヒルゴタリャ……飛ばすのなら、男はつい場所考えずに。
ヒルカルデン……午後でよかったなら、午後の仕事に変える。
ヒルカル……午後からの予定に、午後なら都合がよいから。
ヒルヌ……昼寝も健康の鍵、午睡して寝不足解消を。
ヒルマカル……昼の明るいうちから、昼間は気分が乗らない。
ヒルウジョル……疲れていい案が浮かばぬ、緊張があるのが。

ヒルヨコイン……昼間休みの有効利用、昼の休憩は癒される。
ヒルンヒナケ……昼の盛りの中、昼の有効な時間に、日中に。
ヒルカルデン……午後からでもよかれば、ごごならよいが。
ヒルマジコビリ…午前中のお茶の時間、一休みの口楽しみに。
ヒルヒル……干あがってゆくので、よく干し物が乾くので。
ヒル……用足しする、排尿動作、干上がる、乾く、乾燥する。
ヒレージャ……干上がります、よく乾きます、排尿して。
ヒレーウイー…平らな場所に植えて、日当たりのよい場所に。
ヒレ……排尿しなさい、乾きなさい、干上がります。
ヒレタラオコセ……自分で行けるようなら起こして、便所に。

ヒレウネ…平らな畝に植えこむ、日当たりのよい場所がよい。
ヒレートン……排尿できますよ、乾きます、干上がります。
ヒロゲマエーチ……広げて有効利用、多くを早く乾燥させる。
ヒローチキタ…拾ってきたので、使えるものは有効に生かす。
ヒログリャ…広げて乾燥させる、天気を有効に使う、開広げ。
ヒロヒロスル……食い意地が先に、食い物アサリハ醜い。
ヒロシメー……死去する、永眠に、広く和める場所の意味。
ヒロツク……がさがさ物欲しがる、心貧しい醜態、貪欲な。
ヒロタキ……拾ったので生かされる物、拾い物にも命が宿る。

ひ　ヒロチクル……拾って来ました、落ち穂かこんなにあって。
ヒロイグイ…密かに食べたのでは、うっかり拾い食いは後悔。
ヒロタナ……拾ったのなら届けないと、拾ったのなら本人に。
ヒロヒロスル……欲張り根性が、何でも欲しがる強欲な。
ヒロガッチヨル……広がって見事に、籾干しする秋の風情。
ヒログンナ…あまり広げるとかたずけが大変、肝心な所見え。
ヒロゲタカ…広げたら平たく干せば乾きが早い、籾干し大変。
ヒロタカ……拾ったのならよく見つかった、落とした後悔。
ヒロートン…用足しすれば元気も出る、整理現象は仕方ない。
ヒロマリャ……広くなって利用価値が上がる、見事な変身で。

ヒロウチ…拾ったら落とし主に届けて、心配して捜している。
ヒロネーニ……広くはないが使い様では、狭いのを広く使う。
ヒロベシコ……ひろげて上手に使う英知、有効に使う知恵が。
ヒロメテン…広めたとしても使い方では、上手に使う方法を。
ヒロワニャ……拾わないと食べられなくなる、早く収穫して。
ヒロワンカ…拾ったなら収納して、無駄に粗末にしないよう。
ヒロオドチ……拾う予定で来たら、拾っている人たちも多い。
ヒログリャ……広げて上手に使う、時には虫干しもしないと。
ヒロソージャガ…広いようだが使うと、使い方で広く生きる。
ヒロナッチヨル…広くなった予定作業、うまく生かしたから。

ヒロネーデ……広くなくても上手に使う、使い方では広くも。
ヒロノウナッタ……広かったものが狭くなり、自然と雑多に。
ヒンナドゲデン……貧乏はどうでも、心が豊かならいずれは。
ビンツケアブラ…女性の髪につける油、気品が現れる化粧品。
ヒンニシチョル……昼寝しています、昼休みに仮眠して。
ヒンニギッチ…真剣に握りしめて、よくよくのお気にいりか。
ヒンスリャ…貧乏すればへまも連れナウ、貧乏から抜けたい。
ヒンネセンナ……昼寝しませんか、昼寝して英気を養う。
ビンボソダチ……育ちは貧乏でも心は豊か、心豊は幸せな。

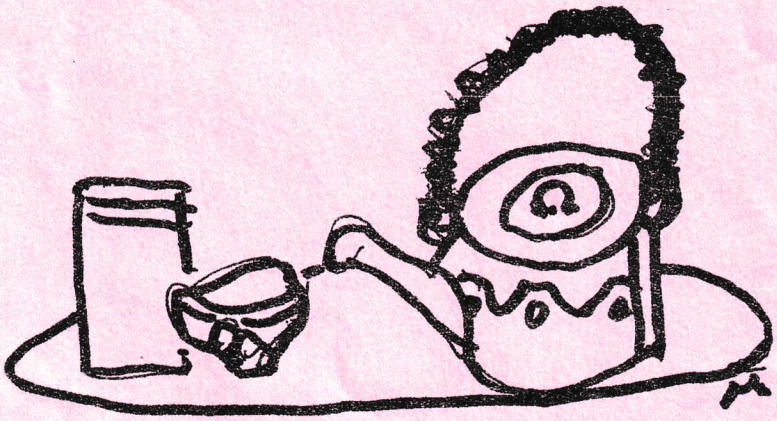
ひ　ヒンニュスル……昼寝しているので、昼寝も健康管理に。
ヒンキンタネツケ……馬が発情したので種付けを、生理現象。
ヒンムク…無理やりに剥いて料理する、乱暴だが手法だから。
ヒンネ……昼寝した無邪気な姿、老人の昼寝姿は絵になる。
ビントクル……やはり敏感な知能、察知がはやいので処理も。
ヒンミーチ…乱暴に剥いて優しく受入れ、料理ではそれぞれ。
ヒンシャデン……貧しくても心は豊かで、貧乏とは心の差。
ヒンガイチニチ……一日中の繰り返し時間、長帳場な仕事。
ヒンネドマ……昼寝などはいかがですか、昼寝も健康促進。
ヒンガワリー…品位が悪いと気を使うが、それぞれの角度が。

ヒンナンカユウナ……貧しいとはどこで決める、考えようで。
ヒンノミャ……丸呑みは用心して、念入りにしないと。
ヒンヌグ……引き抜いてしまう、乱暴に取り去る、除去する。
ヒンセンデン……貧乏しなくても世の中旨く出来てる、時は。
ヒンタダレカ…貧乏とはどこで決める、豊かでも心貧かれば。
ビンタンヌ……頬を見て可愛いいなぁ、頬の色つやは天使。
ヒンヌグウ……乱暴に拭いさる、拭い取って清潔に。
ヒンネモイイガノウ……昼寝するのも健康管理、健康こそが。
ヒンマガッチ……曲がってしまって、悔しいけれど我慢する。
ヒンユウジ……上品な年寄り姿、年を取っ手も可愛いい老人。

ヒンヨゴージ……曲がってしまって、悔しいがこれも歳かな。
ヒンユウシテーガ……品位がありたいが、高齢になればご免。
ピンコシャンコ……ピンピン元気でいたいが、願っていても。
ピンコロシャン……世の中旨くは行かぬが、成り行き任せに。
ピンピンシチョル……元気印だから、幸せ人生に生きよう。
ヒンノアタァ……品位の後は可愛いい年寄りに、嫌われない。
ヒンユウシチョルノゥ……優しく素直に嫌われないように。
ヒンノムナヤ…急に飲みこんでは危険、ゆっくり落ち着いて。
ヒンミーチミヨ……よく見さざめて、きちんと直視して。

41835

民話伝承



『移り変わる歴史の中で生かされて』

歴史には伝承ゃ民話　時代背景などか時には　素直に流れ場合では　淀みとなって忌まわしい　時代も刻まれて来た。

『おもてなし』は　室町時代かるあっち　形こそ変わっちょるごたるが　日本人の真心が　人ん心ん奥深く　残っちょるよう。相手ん心の奥まで伝わる　そこに信頼や情愛が　培われ根づいち広がっち行く。施しの気持ちがやがて　報いの場合にも感謝ん出来る優しい人間同志の　絆かんしれんごたる。

戦時中ん『学徒動員』が　小雨ん降る中じあったんが　昭和１８年《１９４３》１０月じゃつた。前後２７８０人あまり　学問の途中かる戦地に赴く。戦死の学徒もあったよう。当時は学徒ん招集服役は　免除されちょつたが　戦雲が険しくなるとそこまじ進んだ　特殊な場面にもなったごたる。

動物園なんかにゃゆう　『イルカ』ん演技が披露されよる。そん芸の仕込みにゃ　指導する係が一体となっち　覚えさせる苦労があるが　関係者によると『人間とイルカが一体となる信頼』が鍵になるち言う。気長にしかも精魂込める　指導は見事な演技になるもんじゃが　寝食を共にする信頼は　根気のいる仕種。

７年前ん２０１３年《平成２５年》　こん年に東京五輪決定もあったが　東日本の災害かる２年半過ぎた　復興のさなかじゃが決まった意欲は　招致によっち経済復興や　厳しい世界の中じのおかれた　立場を知って欲しかった理由も　あっち消費税の８パーセントに　踏み切る決断も迫られちょつたごたる。年間国家予算も１００兆を越すごたる。戦時の昭和１５年《８０年前》頃ん予算なたしか『２７０億』ぐれち　うろ覚えに覚えちょるが　さてこれかるなぁ。

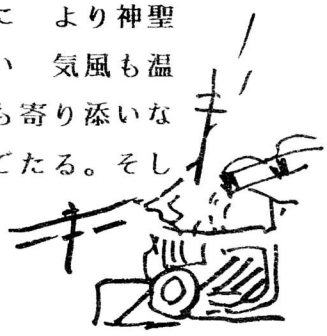
『谷水利用ん自家発電』

浅内国有林は長い年月　管理が行き届いち　定期的に伐採することじ　跡ん補植も計画通りでき　常に有効活用がされよった。伐採の際ににゃ管理者が　管理指導した仕事が順調に出来　そん住み込みん人たちん　生活全般にも心くばりされ　野津原でんそん当時は　珍しい自家発電が現地じ　されちょつた。

美しい谷水が利用されち　炊飯ばかりが生活環境も　ラジオが聞ける優れた生活が　約束されち休みん他は　現地でん勤務がさほど不自由のう過ごされ　休みに町に出た時ん買い物が　また楽しい憩いの時間　心ん和む生活じゃつたらしい。山師かる習ったそん民謡は竹刀踊、口説き踊りやら　里の盆踊りにゃ　覚えた踊りに地域民は　何よりん供養ち喜びよった。

幼い娘姉妹が親の敵を　討つ仕種ん３人ペアん　踊りにゃ哀愁もあっちそん　素朴な踊りん手に　ロマンも実った話に　みんなが喜んじょつた。こん国有林一体んやまなみは　そん昔にゃ南んやから退治した　武人たちが都に引き上げん途中　こん峰じ一夜を過ごしたが　地元ん人たちとん交流に　『なんと平和で心ん豊かな里』と　世話になった感謝の印に　石祠を建て剣を奉って『この里の人たちのいつまでも　幸せな祈願をした』と　伝承もされちょつた。

人の真心が通じ合う時　そこにはどんな人でも　お互いに絆が結ばれる人間同志。いつまでも平和で幸せに　過ごすことこそ何物にも勝る宝物でんあろう。以来こん山並みは常に　より神聖な場所として人が寄り添い　人が助け合う素晴らしい　気風も温存されちょるごたる。じゃき自然と人も優しく　人も寄り添いながら　より幸せに過ごせる　そげなもんでん　あるごたる。そしち『朝内長者』ん　時代になっちくる。



平成５年《１９９５》かる　平成１６年《２００４》　頃まじん行事歴史ん移り代わり　進歩発展しよる故郷じゃ　斬新な動きが止まることのースクリーンに　写しだされよる。

１９９５年１１月２８日　『街道を行く』ＫＢＳ放送が　故郷ん各地を取材し地区内ん　ボランテイァ紹介ん　観光歴史史跡なんかを　近代生活と織り交ぜち　風光明媚に纏められちょった。今市かる旧ん諏訪地域が　浮き彫りされち　スタイルんいい秋葉山かるん　眺望をバックに紹介されちょつた。

野津原宿場町じゃ加藤清正ん　ゆかりん寺や神社　江戸期そんままん広い宿場町往還が　４００年の時を味合わせちもくるる。遺徳忍ぶ今も継承さるる　『清正公まつり』ん　ロマンが浮き彫りさるる　祭り物語ん笛太鼓ん音が　そこから聞かれそう。取りまく七瀬川んセセラギは　姿こす変えてん　清々しい流れは今も心ぅ　和ませちもくるる。

平成１０年《１９９８》ＮＨＫ大分かる放送ん　方言調査に取り組む野津原町ん調査員の　執念が今じゃきこす　聞き取りも出来る古い生活用語じゃつた　方言が刻々と堀起こされち　単語だけでん２万語ぐれーが　集計しち冊子になつちょる。はじめんうちゃ『ヨダキーナェ』ち　言いよったそん気持ちも　ユウワカルナァ。アナウンサーとん　やりとりに時折　方言が出るもんじゃき　大笑いやら不安が渦巻きよった。

こりゃー３月じゃつたが　１０月にゃ国民文化祭が　大分県内ん会場じあっち　四辻峠じゃ舞台芸能も　そん司会進行ナレーションも　文化協会が引き受けち　物の見事に大役果たしち　思いでも残したごたる。二度と無いかん知れん巡り合わせ　これも心豊かに有意義な奉仕活動が　実ったんじゃあるめーか。

平成１１年《１９９９》１１月にゃ　霊峰宇曾岳神社ん２５０年祭が　山頂奥の院じあった。古くからん修験者ん　修行ん場じあった聖地だけに　『子どもん虫封じ』としてん　霊験あらたかじ　生まれるとすぐお参り　無病息災を念じた子思う　親の心情がそこまでしていた。正月は勿論　春秋２季彼岸の中日にゃ　参道にゃお参りの善男善女ん　姿が長い列を作っちょつた。

２５０年の歴史に含まれる　神と人間との絆はいろんな　形じ結びつき佐賀関ん漁師は　山頂ん灯が大漁帰りの　目印にされたち話されよった。標高約６６０メートル　東京スカイツリーん高さと一緒ぐれとは　嬉しい高さでんあろう。天狗が輩との戦いに　白衣をひらめかし　古松ん枝かる枝に飛ぶ　幻想的な動きは　美しいシルエットん　ごたったことじゃろう。

１２年《２０００年》１月に　約１３年間野津原ん情報発信の大分合同　野津原通信部が閉鎖。多くの故郷通信気基地としち故郷ん振興発展から　地区民の生き方過ごし方なんか　桃源郷の趣が故郷から出た人たちには　憧れの思いに慕ったよう。ダムの工事もはじまった　都市近郊んダムは希少価値が　あるとの由。完成後が待たれる希望のシンボル。眺望も豊か空気もうまい。

短縮ニュース最後は　平成１６年１２月《２００４》故郷野津原町の合併前の『閉町式』　行政制度が幕末に出来てから　おおよそ１３０年あまりの間　野津原の名前は消える事なく　合併後もチャント　残っち大分市ん『奥座敷』としち　大事にさるる事じゃろう。閉町式じ町民の『お別れ感謝の言葉』は　なんとナレション方法が取り入れられち　思い出の故郷かる衣替えする心に　感謝の賛辞が綴られちょつた。唄の歌詞にも取り上げられた民話にも顔をだし　伝承にも顔が覗く『野津原』の　読み方は永久に消えるこたー　ないじゃろうち思います。

◎◎◎　方言説明　◎◎◎

９６Ｐ　からん…からの。ごたったことじゃろう…そのようにあったことでしょう。虫封じ…子ども独特の病気の対応。通信部…新聞社が委託して地域の取材や　連絡をする人の仕事。野津原ん名前…神亀３年《７２７》白山権現を勧請した当時　この名前が出て呼ぶようになった。じゃろうち…でしょうから。

９５Ｐ　かる…から。秋葉山…地域にある火伏せの神が奉られている山。されちょつた…されていた。ままん…ままの。くるる…くれる。じゃきこす…だからこそ。じゃつた…でした。くれーか…くらいか。ヨダキーナエ…大義ですねぇ。ユウワカルナァ…よくわかります。もんじゃき…ものですから。こりゃー…これは。ごたる…ようです。あるめーか…にいでしょうか。

９４Ｐ　かんしれんごたる…かもしれないようです。そこまじ…そこまで。なかにゃ…なかには。もんじゃき…ものですから。さなかじゃが…そのさいちゅうで。ちょつた…そうなっていました。うろおぼえじ…うすうす覚えている程度で。

９３Ｐ　国有林…国の資産で主に木が植えられている。でん…でも。されちょつた…されていた。じゃつたらしい…そのようで。あっちそん…あってその。やから…悪得な集団。そげなもんでん…そのようなものでも。あるごたる…あるようです。そしち…そうして。

※　今のヒジイコター《辛くて大変なのは》将来んタミー《為に》なる。今ん楽しみんなんは《楽しい事は》将来ん後悔や涙ん出来ごち《ごと》なる。納得んいく苦労は　買うてでん《買ってでも》しちょくんも《しておくのも》無駄にゃなるめーき《無駄にはならないと思う》。

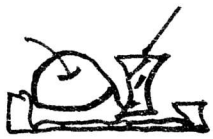
※　自分にこん《この》世じ出来るこつう《ことを》　それに気づくかどうかが　生涯ん別れ道にもなる。夢ももて働き感謝ん《の》心じ眠れるなぁ　幸せん人生じゃろう。

※　７福神かござる　大黒天《ダイコクテン》　恵比寿《エビス》　昆沙門天《ビシャモンテン》　弁財天《ベザイテン》　福禄寿《フクロクジュ》　寿老人《ジュロウジン》　布袋《ホテイ》　以上が７福神です。

※　七草　春…セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、、スズナ、スズシロ。これが春の七草です。
　　秋…ハギ、オバナ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ。これが秋の七草です。

※　関西《京都、大阪、周辺》で使われる言葉じ　野津原でんよう使われる方言…多少変化しちょるけんど……。

コシイ……ずる賢い。オオキニ……ありがとう。
ズリー……悪賢い。キバル……力む、頑張る。
タボウ……大事にする、けち。ハタカル……開く、広げる。
チンメ……小さい、経済家。ホメク……蒸す、発酵する。
ナエル……不自由になる。ヨダキー……大儀な、嫌い。
アゴタン……口やかましい。オツクリ……刺身。
オチョクル……あしらう。ヒネル……つねる。
オトンボ……最後の子供。ドダイ……だいたい、そもそも。
テカケ……隠し女。イヌル……帰る、戻る。
インデ……帰って。ガナ……ばかり、だけ。
エブ……荷札、表せん。ニジクル……なすりつける。
トット……まるで、とにかく。ネンシャ……念入り、執念者。
テゴ……加勢、手伝い。ウッツガッツ……おなじぐらい。



野津原方言集　続編№３０号　編集が終わって

五助街道物語シリーズ　『工藤三助』さんの　苦労話しも『２』に進みました。ご遺族のご行為による　資料も使わせて頂きまして　街道と申しても　野津原の北側山間部を　湛水から東に流れます。７回予定でご苦労の　足跡を馬子唄や　旅人とのやり取りが　賑やかになりそうです。

『五助の夢物語』も　石垣原合戦の出陣前に　建てた逆修墓にまつわる　お話も関係の調査資料から　ご協力をうけました。五助さんが　なにか若返ったのか　『ちょつと一服』にも『あげなこげな話』にも　『時代のうつりかわり』なんかにも話上手　唄上手ときたらもう　とめどねえ嬉しい　悲鳴もあがりました。

『女性の底力』　戦争に関わる　話題がでます。いまわしい戦争は　勝っても負けても　悲しい思いだけが　のこって辛いこと　もうあってはならない時代です。話合いの心の豊かな人間同志　もっと将来を　見据えて欲しいものです。

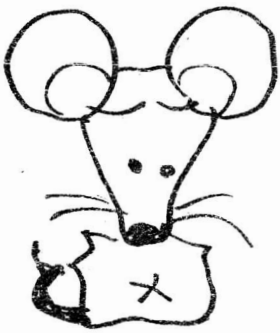
『ふるさとの味』素朴な　人間味が浮き彫りに。主食の米が蚊帳の外では　瑞穂の国が泣きます。農家が豊かに暮らせるそんな願いもひしひしと。

宝の玉手箱』今回も　いろんな鮮度の高いものも。ふるい心遺産や　新しい活気も　方言集にはなでか　よく似合います。

方言単語も『ひ』『ン』まで進み　４１８３５語になりました。調査員が余暇に収拾する　一つ一つが累積した　その中身には皆様の　ご支援ご愛読があっての　成果です。改めまして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。また次回もお楽しみ　お願い申し上げます。

伝言板
３１号

方言単語『ふ』『ア』より　進めます。
シリーズ　『工藤三助』街道物語　№３。
方言子どもん世界。
宝の玉手箱。
女性の底力。
故郷の味。
民話。伝承。
あげなこげな話。
五助のちょうと一服。
時代の移り変わり。



などを主軸に皆様に　余暇のお楽しみ冊子として　ご愛読いただければ　何よりの幸せと存じます。

毎回多くの皆様のご支援と　ご愛読に感謝申し上げます。故郷の生活用語であった　野津原方言を出来るだけ　記録製本して残したちと　会員も生きがいに　取り組んでいます。季節は冬に向かいます。健康管理に心くばりされまして　病気、怪我、事故、火災、盗難、詐欺、に遭遇しないよう　ご配慮の上日々お元気に　お過しをお祈り申しています。

令和３年２月吉日

野津原方言調査会　会員一同